

松井茂関係文書目録

資料番号 1～379 は複製版での閲覧となります。
複製版は書庫から出納しますので、請求票に
「松井茂関係文書 第〇冊」
と記入の上、カウンターにご請求ください。

2022 年 10 月

国立国会図書館憲政資料室

目録・最新の概要情報はウェブサイトに掲載しています
国立国会図書館リサーチ・ナビ「憲政資料（憲政資料室）」
(<https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/jp/index.html>)

凡例

- 作成年月日について本文の内容などから推定した場合は、その推定した部分を〔 〕で囲んで区別している。
- 書簡（資料番号1～379）の配列は、差出人の五十音順である。
- 書簡（資料番号1～379）は、複製版での利用。
- 「複製欄」の記載に、“冊子複製版 第5冊[79]”とあるのは、第5冊の79頁からはじまることを示す。
- 複製版については、「複製欄」に記載されている冊子複製版の冊数番号を請求票に「松井茂関係文書第〇冊」と記入の上、カウンターに請求すること。
- 2022年追加分（資料番号1001～1013）は、原資料で利用。
- 本目録の書簡（資料番号1～379）部分は憲政資料室が中澤俊輔氏（東京大学法学政治学研究科博士課程(当時)）に依頼して作成した。

目次

松井茂関係文書

- [書簡（資料番号1～379）](#)
- [2022年追加分（資料番号1001～1013）](#)

資料 番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
書簡（資料番号1 ～379）					
1	赤池濃書簡	赤池濃	松井茂	7月15日	数量 1通 内容 今般参庁の際高配感謝 記述法 墨書 備考 松井知事閣下。 複製 冊子複製版 第1冊[1] 仮番号 281
2	浅野応輔書簡	浅野応輔	松井茂	〔明治35年〕9 月12日	数量 1通 内容 演説の片々御送付感謝。欧米視察の事 多く大いに利益。 記述法 墨書 備考 年は推定。松井茂様。浅野は逓信技 師。松井は1902年4月欧米出張から帰朝。1 902年6月『消防視察談』刊行。 複製 冊子複製版 第1冊[3] 仮番号 290
3	朝比奈知泉書簡	朝比奈知泉	松井茂	8月22日	数量 1通 内容 「此度小生富山に出張中」「愛知県出 張の節には万事御指図 記述法 墨書 備考 松井老台。 複製 冊子複製版 第1冊[4] 仮番号 302
4	安達峰一郎書簡	安達峰一郎	松井茂	〔明治35年〕9 月24日	数量 1通 内容 「数日前上京致候処貴重なる尊著数篇 御恵投」 記述法 墨書 備考 年は鉛筆。松井学兄殿。 複製 冊子複製版 第1冊[6] 仮番号 292
5	安達峰一郎書簡	安達峰一郎	松井茂	明治36年6月2 5日	数量 1通 内容 「本邦警察事務に関する資料は早速蘭 公使に伝致候処深く感謝」 記述法 墨書 備考 差出人は書込みに拠る。 複製 冊子複製版 第1冊[7] 仮番号 203

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
6	安達峰一郎書簡	安達峰一郎	松井茂	11月26日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「昨日は汽車御地着は遅延致候得共当地には予定の如く八時半に到着仕り三人共無事に三週間の旅行を終わり」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井学兄。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[9]</p> <p>仮番号 9</p>
7	安保清康書簡	安保清康	松井茂	〔明治34年〕5月1日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「今般欧米各国御出張御拜命不日御出発之由」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井茂君。年は推定。安保は海軍中将・男爵。備後（広島県）出身。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[12]</p> <p>仮番号 314</p>
8	有松英義書簡	有松英義	松井茂	明治29年4月3日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「警察官練習所新設」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。松井の解説「内務次官松岡康毅氏は余の警察法研究の事情に就ては承知し居らるゝか故に政府が警察官練習所新設の見込ありたるを以て余に協議せしめんとて有松書記官より余の意見を徴されたるものなり」</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[13]</p> <p>仮番号 84</p>
9	有松英義書簡	有松英義	穂積陳重	明治34年3月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「松井法学士警察法取調の為御出の節はなるべく便宜を与ふへき」旨承知</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 有松は内務書記官。年は156解説による。松井の解説は156を参照。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[15]</p> <p>仮番号 157</p>
10	有松英義書簡	有松英義	松井茂	明治34年4月25日	<p>数量 1通</p> <p>内容 お尋ねの件本日大蔵省で聞き合わせたところ12日に上奏あったため最早変更なし</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。有松は内務書記官。松井の解説「余の洋行に関し大蔵省に聞合せたるに去四月十二日上奏せられたる故変更の虞なしとの意を洩したるなり」</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[17]</p> <p>仮番号 160</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
11	有松英義書簡	有松英義	松井茂	明治34年4月26日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「就ては英米仏独魯墺白等に限られては如何」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。松井の解説「又各国公使に紹介を請ふ為に外務省より訓示を請ふの必要ありとて英米仏独露墺白等に限られては如何とて意見を徴し来れるものなり」</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[19]</p> <p>仮番号 161</p>
12	有松英義書簡	有松英義	松井茂	〔明治34年〕9月29日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「御渡欧後」「消防事務御研鑽」「模形購入費支出方大森総務長官に相談候処」「警視庁にて地方費を支出」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。大森鍾一は1900—1902年に内務省総務長官。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[21]</p> <p>仮番号 322</p>
13	有松英義書簡	有松英義	松井茂	〔明治37年〕3月3日	<p>数量 1通</p> <p>内容 万国警察協会提出の品目取調べについて</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は鉛筆で加筆。松井老台。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[26]</p> <p>仮番号 50</p>
14	有松英義書簡	有松英義	松井茂	明治37年8月1日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「工業警察に関するご意見」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は鉛筆。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[29]</p> <p>仮番号 337</p>
15	有松英義書簡	有松英義	松井茂	〔明治38年〕3月5日	<p>数量 1通</p> <p>内容 松井の警視庁第一部長兼任消防部長就任の祝辞。「殊に歐洲にて御研鑽相成特長の御技倆と云ひ」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井老台。松井は1905年2月10日～10月、警視庁第一部長兼任消防部長。有松は1904年11月～41年7月。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[31]</p> <p>仮番号 199</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
16	有松英義書簡	有松英義	松井茂	〔明治39年〕7月21日	<p>数量 1通</p> <p>内容 韓国理事官赴任への祝辞。「同地は万事創業の際に属し殊に警察行政は最も大切に有之、理事官として其局に当らるるは同地経営上尤大なる関係を有する」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[34]</p> <p>仮番号 118</p>
17	有松英義書簡	有松英義	松井茂	3月18日	<p>数量 1通</p> <p>内容 博覧会出品に関してご尽力感謝、松平副総裁とは行き違いで未だ面会できず、出張の山脇氏に面会、同氏に金三百円交付</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老台。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[37]</p> <p>仮番号 51</p>
18	有吉明書簡	有吉明	松井茂	〔明治39年〕10月19日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「貴地在勤中万事遣り放し之結果 御迷惑之事」 水道、墓地移転、埋立地道路に一間のレールを許可</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年と作成者は鉛筆書込による。有吉は領事・牛荘在勤。前釜山理事庁理事官。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[40]</p> <p>仮番号 135</p>
19	有吉忠一書簡	有吉忠一	松井茂	〔明治39年〕10月29日	<p>数量 1通</p> <p>内容 在韩国日本公使館撤廃後、釜山税関で日本人が関税を支払う可否について</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。名のみ。近藤左右一（理事庁副理事官）か。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[47]</p> <p>仮番号 136</p>
20	安楽兼道書簡	安楽兼道	松井茂	明治33年11月25日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 安楽は1900年10月19日より警視総監。松井の解説「安楽氏警視総監となり余と共に各署を巡視せんと書面を送られたるものなり」</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[53]</p> <p>仮番号 152</p>

松井茂関係文書目録

資料 番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
21	安楽兼道書簡	安楽兼道	松井茂	〔明治39年〕1 0月30日	数量 1通 記述法 墨書 備考 年は推定。松井理事官。 複製 冊子複製版 第1冊[54] 仮番号 137
22	安楽兼道書簡	安楽兼道	松井茂	4月17日	数量 1通 内容 御高話 記述法 墨書 備考 松井賢兄。年は推定。 複製 冊子複製版 第1冊[58] 仮番号 324
23	安楽勇十郎書簡	安楽勇十郎	松井茂	〔明治39年〕4 月24日	数量 1通 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第1冊[60] 仮番号 218
24	井口省吾書簡	井口省吾	松井茂	〔大正5年〕5 月6日	数量 1通 内容 「先日は悠基斎田写真帖下巻御贈与に 預り是にて上巻と併ひ完璧を得候」 記述法 墨書 備考 年は推定。朝鮮駐劄軍司令官、前第1 5師団長 複製 冊子複製版 第1冊[64] 仮番号 168
25	池上四郎書簡	池上四郎	松井茂	〔明治35年〕7 月19日	数量 1通 内容 「欧米消防談と題する印刷物御恵送を 辱ふし」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井茂殿。松井茂「欧米消 防談」『警察協会雑誌』第25号（1902年6 月）。 複製 冊子複製版 第1冊[65] 仮番号 300
26	池田猪三次書簡	池田猪三次	松井茂	大正4年7月17 日	数量 1通 内容 開通式出席への礼状 記述法 墨書 備考 松井知事閣下。 複製 冊子複製版 第1冊[67] 仮番号 60

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
27	池田秀一書簡	池田秀一	松井茂	〔明治39年〕4月22日	<p>数量 1通</p> <p>内容 松井の官房主事免官について意見。「戦後の時代」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[69]</p> <p>仮番号 211</p>
28	伊沢多喜男書簡	伊沢多喜男	松井茂	〔大正3年〕15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 八名郡長の国宗鹿太郎を警視庁警視に採用</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年代は推定。国宗鹿太郎は1914年8月15日付で警視庁警視・八王子警察署長に転任。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[70]</p> <p>仮番号 33</p>
29	石井菊次郎書簡	石井菊次郎	松井茂	〔明治35年〕6月18日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「国友史叙勲之儀は井上公使か立通にて独乙政府へ詔儀</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井書記官殿。石井は1902年2—10月に外務省総務局人事課長。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[72]</p> <p>仮番号 332</p>
30	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	明治34年2月6日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 石黒は陸軍軍医総監。松井の解説「第二病院火災遭難事件の為に石黒氏は参考となるべき事項を認めて当局者の資料に供せんとて送り来りたるものなり」</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[74]</p> <p>仮番号 154</p>
31	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	明治36年9月9日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「御纂著書冊」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[76]</p> <p>仮番号 271</p>
32	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	〔明治39年〕8月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 韓国理事官赴任への祝辞。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井学士様。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[78]</p> <p>仮番号 120</p>

松井茂関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
33	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	大正2年8月31日	数量 1通 内容 天長節を祝す。済生会と合併。 記述法 墨書 備考 「大正二年天長節午後」 複製 冊子複製版 第1冊[80] 仮番号 262
34	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	大正3年8月17日	数量 1通 内容 「昭憲皇后」 記述法 墨書 備考 松井知事閣下。 複製 冊子複製版 第1冊[82] 仮番号 361
35	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	大正4年8月2日	数量 1通 内容 「さて来月十三日は乃木將軍三年忌に候」青年を多く集めて会の講演 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第1冊[84] 仮番号 100
36	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	大正4年9月6日	数量 1通 内容 浜松で乃木会。9月12日、13日。 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第1冊[87] 仮番号 89
37	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	大正4年9月16日	数量 1通 内容 乃木会について。「亡友乃木君」 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第1冊[89] 仮番号 93
38	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	〔大正4年〕10月4日	数量 1通 内容 「乃木会講演会」「当年は此方も豊作併し米価」「乃木相続に付ては 大浦事件に付も亦 記述法 墨書 備考 『松井茂自伝』352頁によると、松井は愛知県知事時代、乃木会愛知県委員部を置き、同会評議員となった。 複製 冊子複製版 第1冊[91] 仮番号 6
39	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	大正4年10月21日	数量 1通 内容 乃木講話 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第1冊[93] 仮番号 29

資料 番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
40	石黒忠憲書簡	石黒忠憲		〔大正4年〕	数量 1通 内容 9月13日乃木会講演 記述法 墨書 備考 年は推定。書簡89に続く石黒忠憲か。 複製 冊子複製版 第1冊[95] 仮番号 90
41	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	8月6日	数量 1通 内容 「九月十三日にご来会の」 記述法 墨書 備考 作成者は筆跡から推定。松井博士閣下。 複製 冊子複製版 第1冊[98] 仮番号 102
42	石黒忠憲書簡	石黒忠憲	松井茂	9月16日	数量 1通 内容 御贈物到着 記述法 墨書 備考 松井知事殿。 複製 冊子複製版 第1冊[100] 仮番号 94
43	石原健三書簡	石原健三	松井茂	〔大正3年〕9月12日	数量 1通 内容 「先達来之貴地電車騒擾」についてご心痛を同情。 記述法 墨書 備考 年は推定。石原は内務官僚。元愛知県知事。当時は神奈川県知事。 複製 冊子複製版 第1冊[101] 仮番号 228
44	石原書簡	石原	松井茂	〔明治39年〕11月29日	数量 1通 内容 漁業団体「将来相当之成績を挙ぐる事困難ならずと確信」 記述法 墨書 備考 年は推定。釜山居留民団団長の石原半右衛門か。 複製 冊子複製版 第1冊[103] 仮番号 142
45	伊東忠太書簡	伊東忠太	松井茂	8月1日	数量 1通 内容 「熱田神宮設計の遅延仕り何とも恐縮の至に不堪候」「多分来る七日には出来の積りに御座候」 記述法 墨書 備考 松井老台。伊東は建築家・美術史家。1922年熱田神宮境内拡張をてがける。 複製 冊子複製版 第1冊[107] 仮番号 99

松井茂関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
46	伊藤悌治書簡	伊藤悌治	松井茂	明治37年9月2日	数量 1通 内容 昨日総会開催 記述法 墨書 備考 年は鉛筆で加筆 複製 冊子複製版 第1冊[110] 仮番号 48
47	伊藤悌治書簡	伊藤悌治	松井茂	〔明治39年〕8月24日	数量 1通 内容 韓国赴任祝辞。 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第1冊[113] 仮番号 127
48	井上円了書簡	井上円了	松井茂	明治39年11月4日	数量 1通 内容 釜山から京城に。天長節。 記述法 墨書 用紙 便箋 備考 松井理事官。 複製 冊子複製版 第1冊[115] 仮番号 140
49	井上孝哉書簡	井上孝哉	松井茂	明治40年3月28日	数量 1通 内容 「先般御申越有之候件警察消防責著御紹介可致義は製本出来の当時直に各府県警務長へ書面差出し（警察のオーソリチーたる貴君の事を今更事新しく吹聴するは甚トンチンカンにて却て御名譽を損するかとも存致居）。「各県とも講演方或は会議に於て或は書面に於て勧誘」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井老兄。『消防叢譚』は1907年1月28日、『警察叢譚』は同年3月10日刊行。 複製 冊子複製版 第1冊[116] 仮番号 366
50	井上哲次郎書簡	井上哲次郎	松井茂	〔大正5年〕7月22日	数量 1通 内容 「第二中学校長旭野氏之後任として小生文学士阿部種巖氏（現下静岡中学在職）を推薦」 記述法 墨書 備考 年は書簡289から推定。愛知県知事松井茂殿。 複製 冊子複製版 第1冊[120] 仮番号 286

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
51	井上密書簡	井上密	松井茂	〔明治34年〕4月30日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「尚今般之欧州御巡回の命を貰ひ近日御出発之由」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井学兄。井上は京都帝国大学教授、のち京都市長。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[122]</p> <p>仮番号 313</p>
52	井上密書簡	井上密	松井茂	〔明治35年〕9月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 欧米視察談等御印刷</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井老台。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[124]</p> <p>仮番号 291</p>
53	井上密書簡	井上密	松井茂	〔明治39年〕8月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 韓国理事官祝辞。赴任途中当地へお立寄りできれば。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井賢台。井上は京都帝大教授、京都市長。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[125]</p> <p>仮番号 122</p>
54	入江為守書簡	入江為守	松井茂	〔大正4年〕10月9日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「東宮殿下第一艦隊行啓之節」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。入江為守は子爵、御歌所長（1915）。1915年10月1-4日、皇太子（昭和天皇）は伊勢湾の第一艦隊に行啓。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[127]</p> <p>仮番号 68</p>
55	岩井敬太郎書簡	岩井敬太郎	松井茂	〔大正2年11月〕23日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「大演習に引続き県会も開らき」「当県は明治始まつてよりの凶作にて殆んど餓子途に出つるの有様之の救済策に就ては数月前より種々」「政府より漸く76万円の低利資金を得之にて救済資金に充つる考にて目下諸種計画中に御座候」「政党は政友会にして一県一党とて大分乱暴」「人気は弥々面白からず」</p> <p>記述法 ペン</p> <p>用紙 大正期便箋</p> <p>備考 年月は推定。松井閣下。岩井は元韓国統監府警視。1913年11月、愛知県で陸軍大演習。</p> <p>複製 冊子複製版 第1冊[129]</p> <p>仮番号 362</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
56	岩田衛書簡	岩田衛	松井茂	6月24日	数量 1通 内容 「小生御県在任中は不一方御信任を厚ふし」「今や任所を異にし」 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第1冊[132] 仮番号 260
57	上野季三郎書簡	上野季三郎	松井茂	6月11日	数量 1通 内容 御準備 記述法 墨書 備考 差出人は「季三郎」。上野は宮内大臣秘書官兼式部官。 複製 冊子複製版 第1冊[135] 仮番号 256
58	鵜沢総明書簡	鵜沢総明	松井茂	〔明治39年〕8月18日	数量 1通 内容 韓国釜山理事官赴任。奮励を求む。 記述法 墨書 備考 年は推定。松井老台。鵜沢は衆議院議員。 複製 冊子複製版 第1冊[137] 仮番号 125
59	江木千之書簡	江木千之	松井茂	〔明治39年〕4月27日	数量 1通 内容 松井の桂冠について。 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第1冊[139] 仮番号 221
60	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	明治32年1月4日	数量 1通 内容 本日消防出初式梯子登の式場を消防分署前に限る 記述法 墨書 備考 解説有。解説「消防出初式梯子乗は式場を消防分署前に限る事となりたるは是迄兎角一般の軒先にて之を為すに至り殊に本郷に於て倒死者ありたるか故なり」 複製 冊子複製版 第2冊[1] 仮番号 57
61	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	〔明治33年〕1月2月6日	数量 1通 内容 小林の件。田中 氏と高崎京都知事に相談を試み。 記述法 墨書 備考 年は推定。松井は1901年5月から1902年2月まで洋行。高崎親章は1900年3月から1902年2月まで京都府知事。松井が洋行する以前の1900年か。 複製 冊子複製版 第2冊[3] 仮番号 110

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
62	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	〔明治33年〕1月4日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「方法を内務大臣に別書を以て」「至急ご研究相求」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井殿。作成者は推定</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[4]</p> <p>仮番号 105</p>
63	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	明治34年2月2日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 大浦は前警視總監。年は解説による。松井の解説「予め計画せる種々の規則も昨冬発布したりとて第二部長の余に謝意を表されたるなり。当時第二病院の惨憺たる火災の出来事あり余は末松内相と共に其焼跡を見分し其惨状実に忍ぶ能はさりしなり。当時尚余が品川の別荘出来上りたりとて拝見したしと言はれたるは少々痛入りたる次第なり因に曰ふ余が品川の別荘とは内務省にては非常に有名なるものなり余曰く本宅なきに別荘ある所以なきにあらずやと」</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[6]</p> <p>仮番号 153</p>
64	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	〔明治34年〕4月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「小生らも山陰」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老兄。1901年か。書簡321参照。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[10]</p> <p>仮番号 312</p>
65	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	〔明治34年〕8月17日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「此は恰も武徳会にて山陰道並に京坂地方に滞在中」再任の報告。「貴兄の欧州御巡回は我国警察上非常の利益ある事は」「現今政海も誠に平穩」現内閣の出立するや内一致せし」「尚此の如き政海に平穩なるは嘗てなき事となり」</p> <p>記述法 ペン謄写</p> <p>備考 松井賢兄。大浦は1901年6月より警視總監。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[12]</p> <p>仮番号 321</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
66	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	〔明治34年〕1月11日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「小生再任後路傍観物を禁し自転車取締規則を發布し悉く実効有之」「政海は正に議会も■近し為に」「格別大戦争の兆も相見えす」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井賢兄。年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[14]</p> <p>仮番号 323</p>
67	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	〔明治37年〕1月22日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は鉛筆で加筆</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[15]</p> <p>仮番号 49</p>
68	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	〔大正2年〕12月4日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「御地県会に於て今回軌道に関する新税の提案有之由なるか目下の軌道状態にて新税を課せらるゝは其発達を阻碍するの虞ありとの尙早意見同志者間」「予算削減の結果幸に収入に余剰を生ずること有之候へバ該案御撤回相成事と被為叶間敷哉」「尙経済界不況之今日に付電柱瓦斯管税の如きも御一考被下候はゝ県民は一層満足するかと」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井知事殿。1912年愛知通常県で、県は軌道税、電柱税、ガス管税を提案。名古屋市に限り実施。1914年通議議会で、県は三税を岡崎市と郡部にも実施することを提案。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[17]</p> <p>仮番号 247</p>
69	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	〔大正3年〕9月16日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「下岡次官の」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[21]</p> <p>仮番号 230</p>
70	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	〔大正4年〕12月11日	<p>数量 1通</p> <p>内容 等商校 御大典に付 陛下</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[23]</p> <p>仮番号 19</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
71	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	〔大正5年〕1月24日	数量 1通 内容 昇勲を祝う。 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第2冊[26] 仮番号 207
72	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	1月30日	数量 1通 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第2冊[29] 仮番号 198
73	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	4月22日	数量 1通 内容 内務の中川書記官 記述法 墨書 備考 松井賢兄。 複製 冊子複製版 第2冊[32] 仮番号 248
74	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	7月24日	数量 1通 記述法 墨書 備考 松井賢兄。 複製 冊子複製版 第2冊[33] 仮番号 204
75	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	10月14日	数量 1通 記述法 墨書 備考 松井賢台。 複製 冊子複製版 第2冊[35] 仮番号 83
76	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	11月21日	数量 1通 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第2冊[37] 仮番号 111
77	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	12月19日	数量 1通 内容 戦争 記述法 墨書 備考 松井老台。 複製 冊子複製版 第2冊[38] 仮番号 109
78	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂 菅井誠美	15日	数量 1通 内容 「本日署長会議には是非出席致度」 「昨日分の風邪にて」 記述法 墨書 備考 菅井殿松井殿。 複製 冊子複製版 第2冊[40] 仮番号 298

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
79	大浦兼武書簡	大浦兼武	松井茂	30日	<p>数量 1通</p> <p>内容 昨日尋ねられた際は来客中にて失礼。明朝は面会出来得る。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井大賢。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[43]</p> <p>仮番号 108</p>
80	大久保利武書簡	大久保利武	松井茂	〔明治39年〕10月3日	<p>数量 1通</p> <p>内容 他日赴任の際は懇々御挨拶に預かり</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定、</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[45]</p> <p>仮番号 134</p>
81	大久保利武書簡	大久保利武	松井茂	6月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「商品陳列館長之件御回示」「後任候補者に気付きあらは御参考に申上げ」「当地平賀博士は永く館長たりし」「斯界に交渉広く東京方面にも関係不少同人に内談致候処幸に上京の際」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老台閣下。利武は1912年12月～1917年12月に大阪府知事。平賀は大阪商品陳列所長。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[47]</p> <p>仮番号 274</p>
82	大隈信常書簡	大隈信常	松井茂	〔大正3年〕10月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 出張時のもてなしに対する感謝。「伯爵も非常に満足」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。大隈生 = 大隈信常か。松井老兄。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[49]</p> <p>仮番号 267</p>
83	大隈信常・頼母木桂吉書簡	大隈信常・頼母木桂吉	松井茂	12日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井茂殿</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[51]</p> <p>仮番号 176</p>
84	大倉喜八郎書簡	大倉喜八郎	松井茂	22日	<p>数量 1通</p> <p>内容 経理局長と打合わせ。総監より御送達あり。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井老台。差出人は付箋に拠る。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[53]</p> <p>仮番号 205</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
85	大島久満次書簡	大島久満次	松井茂	〔大正3年〕5月1日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「陳者小生事今回休職之恩命相成候処」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。法学博士松井茂殿。大島は内務官僚。台湾民政長官。1914年4月神奈川県知事休職。1915年政友会代議士。阪本鈺之助の弟。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[55]</p> <p>仮番号 251</p>
86	大谷嘉兵衛書簡	大谷嘉兵衛	松井茂	〔明治35年〕7月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「欧米に於ける消防談壺部御恵与」感謝</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井様。松井茂「欧米消防談」『警察協会雑誌』第25号（1902年6月）。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[57]</p> <p>仮番号 299</p>
87	大森鍾一書簡	大森鍾一	松井茂	5月22日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「結構なる煙草御恵与」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老台。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[60]</p> <p>仮番号 38</p>
88	岡野敬次郎書簡	岡野敬次郎	松井茂	〔明治36年〕7月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「川崎法学士の件」「殊に市長に於て採用之模様も相見へ候由なれば随分困難かと」尤も聞く所によれば同家を出入する者は多くは無頼之徒にて或は賭博</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年月は書込みに拠る。松井先生。岡は内務書記官・警保局警務課長。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[62]</p> <p>仮番号 196</p>
89	〔岡野〕敬次郎書簡	〔岡野〕敬次郎	松井茂	〔明治36年〕9月12日	<p>数量 1通</p> <p>内容 著述数冊御恵与。「川崎法学士には其後三回面会」「新に吏員を採用せざる方針」「学士は兎に角文官高等試験を受けられた様なれば合格の上は</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は鉛筆で加筆。松井老台。『川崎卓吉』で要確認。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[66]</p> <p>仮番号 45</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
90	岡部譲書簡	岡部譲	松井茂	〔大正4年〕11月30日	<p>数量 1通</p> <p>内容 御大典無御滞 悠紀地方長官之御主任御祝辞</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。岡部は熱田神宮宮司。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[68]</p> <p>仮番号 10</p>
91	岡部譲書簡	岡部譲	松井茂	大正4年12月30日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「御大典に悠紀地方の長官として」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井知事殿。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[70]</p> <p>仮番号 350</p>
92	岡部譲書簡	岡部譲	松井茂	3月10日	<p>数量 1通</p> <p>内容 昨日「熱海に依り境内整理に付協議好結果を得」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井知事閣下。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[72]</p> <p>仮番号 351</p>
93	岡本英太郎書簡	岡本英太郎	松井茂	〔大正5年〕7月14日	<p>数量 1通</p> <p>内容 三溝技師転任、中金技師採用の件。追伸「大日本山林会総会出席之為本日当地に來り本月末日頃帰京之積に御座候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井長官閣下。差出人名は「岡本山林局長」。三溝は愛知県技師三溝謹平。1916年9月18日、滋賀県林業技師へ転任か。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[73]</p> <p>仮番号 280</p>
94	岡本英太郎書簡	岡本英太郎	松井茂		<p>数量 1通</p> <p>内容 原口産業課長を派遣。後任。「当局課長之意見をも参酌し貴県に適任と思ふ式級技師を物色し更換方長官に向け相談」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年月日は無し。「松井閣下、法制局」。作成者は「岡本山林局長」。岡本は1912年12月～1918年10月農商務省山林局長。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[79]</p> <p>仮番号 179</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
95	小河滋次郎書簡	小河滋次郎	松井茂	〔明治34年〕5月2日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「新嘉坡に於て久水領事と御面会相成」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井老兄。松井は1901年5月4日ドイツに向けて横浜出航、同月20日シンガポール着。小河の紹介状をもって久水領事と面会した（『松井茂自伝』180頁）。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[83]</p> <p>仮番号 317</p>
96	小河滋次郎書簡	小河滋次郎	松井茂	〔明治40年〕3月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「消防並に警察叢譚御恵与」感謝。「内地警察界も中堅たる老兄を棄てより以来何となく活気を喪失したるもの、如く」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井老兄。小河滋次郎と推測。『消防叢譚』は1907年1月28日、『警察叢譚』は同年3月10日刊行。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[85]</p> <p>仮番号 365</p>
97	奥田義人書簡	奥田義人	松井茂	明治36年7月9日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「川崎法学士■上之件は既に穂積博士よりも御談有之以て一昨日尾崎市長に御談話の処生憎既に約束之法学士有之の爲め川崎氏の方は六ヶ敷模様有之」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は書込みに拠る。書簡126と同じ署名。川崎卓吉は1903年7月東京帝国大学法科大学卒業、同年10月大学院研究科入学。同年11月高等文官試験合格。『川崎卓吉』によれば、松井は川崎から東京市就職について相談され、尾崎行雄東京市長に紹介した。穂積八束も川崎から相談を受け、尾崎と前東京市長の奥田に川崎を紹介している。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[87]</p> <p>仮番号 194</p>
98	奥田義人書簡	奥田義人	松井茂	〔明治39年〕8月23日	<p>数量 1通</p> <p>内容 韓国赴任祝辞。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井老兄。書簡194と同じ署名。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[89]</p> <p>仮番号 126</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
99	小田知周書簡	小田知周	松井茂	明治31年2月9日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。小田は高松市長。松井の解説「余の内務省に入り内務事務官となるや香川県人は有力者連判にて留任運動を芳川内相に試みんとして進行中の処小田高松市長書を余に寄せて県民の情を察し呉れと申来りたるものなり」</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[91]</p> <p>仮番号 79</p>
100	小野田元熙書簡	小野田元熙	松井茂	〔明治34年〕5月1日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「拜啓今回欧米各国へ御派遣被命我国警察進歩之為め深く欣喜に堪えず」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井賢台。年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[94]</p> <p>仮番号 315</p>
101	小野田元熙書簡	小野田元熙	松井茂	〔明治35年〕1月11日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「毎々御演説」感謝</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[96]</p> <p>仮番号 304</p>
102	小野田元熙書簡	小野田元熙	松井茂	明治37年2月17日	<p>数量 1通</p> <p>内容 警察監獄学校閉校について。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は鉛筆で加筆</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[97]</p> <p>仮番号 47</p>
103	恩田書簡	恩田	松井茂	〔大正4年〕7月9日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「先日は浅野侯爵閣下御来場」「農業技術方面に於て改良するの余地多々有之ものと候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。恩田篤（51津村光華）か</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[103]</p> <p>仮番号 54</p>
104	恩田書簡	恩田	松井茂	〔大正4年〕10月9日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「齋田と農業」御患贈感謝</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井賢台。1915年4月22日の祓式で有馬頼寧農商務省囑託は「齋田と農業」と題して講演を行う（『松井茂自伝』322頁）。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[105]</p> <p>仮番号 67</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
105	賀古桃次書簡	賀古桃次	松井茂	5月18日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「熟考に熟考を重ね候に微力到底其任に堪ふ能はざるを観念仕候折角の御懇諭にそむき甚た以て心苦しき次第に有之候へども御辞退申上る外途なく」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老台。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[106]</p> <p>仮番号 342</p>
106	賀古桃次書簡	賀古桃次	松井茂	5月20日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「貴命に随ひ本日正午文部省に福原次官を御訪仕候処折悪しく御出勤無之余儀なく引返申候」よって明早朝に私宅訪問、面会叶候はゞ直様帰名乃途に就き申すべき心」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井知事閣下。賀古桃次は愛知県立医学専門学校教諭（医学博士）。陸軍軍医賀古鶴所の弟。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[109]</p> <p>仮番号 36</p>
107	加地鈔太郎書簡	加地鈔太郎	松井茂	〔明治30年〕1月22日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「警視庁は御大喪之」「山井景資なる者、警察に関する有力なる一雑誌発刊之計画有之」「講話会之失敗も有之」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。加地は警視庁総監官房第一課長。「御大喪」は英照皇太后大喪（1897年2月2日）か。松井茂の解説「余の曩に四谷警察署長たりし時代に於て加地氏等と謀り警視庁内に警察講話会を催すや頑冥連は終に之を倒したることあり故に書中之に及ふ。加地氏は警察法に精通し最も忠実且有為の人物にして余の警察上に於ける無二の親友たり。本論は山井某の警察雑誌を発刊するに当り之を紹介し来れるものなり」</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[111]</p> <p>仮番号 74</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
108	加地鈔太郎書簡	加地鈔太郎	松井茂	明治31年7月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「警察の事務官としては貴兄を候補者に見出し処本年度は経費無之来年度より警察の方は」「来年度より警察監獄学校も設置相成」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 解説「余の警視庁に帰来するの意なきやを尋ね来りたるものにして余は直に今は警視庁に帰るの希望なしとの意を答へ置きたり」。ただし、解説は76水野錬太郎書簡と入れ違いになっている。月日は推定（解説では1897年1月8日だが、これも水野書簡と入れ違い）。冒頭に「酷暑之候」とあり、7月か。1897年6月30日第一次大隈内閣成立、7月16日園田安賢が警視總監を懲戒免官、7月26日松井茂が警保局警務課長に就任。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[115]</p> <p>仮番号 75</p>
109	桂田富士郎書簡	桂田富士郎	松井茂	〔大正5年〕3月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 医学専門学校に関して。大阪医学校の例。熊谷氏は世界の大勢に遅れ部下を叱咤統率する勇気なし。門下生の横井達磨と友人の寺島軍医監を紹介。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井博士閣下。1915年10月、大阪府立高等医学校は府立大阪医科大学に改名</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[117]</p> <p>仮番号 8</p>
110	桂田富士郎書簡	桂田富士郎	松井茂	〔大正3年〕6月21日	<p>数量 1通</p> <p>内容 新築校舎が完成した医学専門学校の熊谷校長の後任候補者に不肖の名あり狼狽</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。桂田（1867～1946）は元岡山医学専門学校教授。日本住血吸虫の発見者。1914年愛知医学専門学校の新校舎が完成、移転。一年前に桂田が朝鮮に出張したとの記述あり。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[129]</p> <p>仮番号 7</p>
111	桂太郎書簡	桂太郎	中嶋男爵	1月14日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 差出人は付箋に拠る。</p> <p>複製 冊子複製版 第2冊[137]</p> <p>仮番号 202</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
112	金井延書簡	金井延	松井茂	〔明治35年〕1 2月23日	数量 1通 内容 「講演筆記三種御患与被下難有」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井法学士殿。 複製 冊子複製版 第2冊[140] 仮番号 306
113	〔金杉〕英五郎書簡	〔金杉〕英五郎	松井茂	5月29日	数量 1通 内容 過般当地へ■■■之際は凶らすも非常の御優遇を辱ふし 記述法 墨書 備考 松井博士真下。 複製 冊子複製版 第2冊[141] 仮番号 70
114	亀山理平太書簡	亀山理平太	松井茂	〔明治39年〕4 月23日	数量 1通 内容 松井の免官について。「満韓地方漫遊相成候趣当国の警務等を是非学兄の研究眼に映し御高見拝聴致度」 記述法 墨書 備考 亀山は内務官僚。後の徳島知事。 複製 冊子複製版 第2冊[143] 仮番号 215
115	川口彦治書簡	川口彦治	松井茂	〔大正4年7 月〕	数量 1通 内容 「今回休職を命せられし処非常なる御同情を賜はり」「内相並に次官にも」面会して休職の理由を知る。「過般の総選挙には厳正公平を旨とし取締りたる賑なるも違反者の側と申せは政府党四人も検挙せられ剩さへ今回当選となる森（同志派）の如きは第一番第二番 共に有罪と為りたる次第なれば彼等は」「大浦氏は非常に同情し何とか他に工夫を擬すべしと」「今回辞表提出内閣同様の問題 記述法 墨書 備考 年月は推定。総選挙は第12回総選挙（1915）か。川口は1915年7月1日奈良県知事を休職。森正は奈良県衆議院議員（立憲同志会） 複製 冊子複製版 第3冊[1] 仮番号 63
116	川路利恭書簡	川路利恭	松井茂	明治34年4月2 7日	数量 1通 内容 出京の期日 記述法 墨書 備考 年は解説による。川路は岐阜県知事。松井の解説「洋行を祝し来れるものなり」 複製 冊子複製版 第3冊[6] 仮番号 162

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
117	川瀬幸三書簡	川瀬幸三	松井茂	〔大正4年〕10月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「悠紀御齋田之写真帖御恵贈」礼状</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[8]</p> <p>仮番号 15</p>
118	川田正根書簡	川田正根	松井茂	明治29年5月23日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「陳者先日委員会に於て」「行政警察権限法案に対する意見は」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。松井の解説「警視庁に於て警察規則取調委員会の設置ありて余も其委員の一人たり当時行政警察権限法案（後行政執行方として発布されたるもの）に対し余の意見を徴し来りたるもの」</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[10]</p> <p>仮番号 85</p>
119	神戸直彦書簡	神戸直彦	松井茂	〔大正4年〕5月6日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「浅野長政公御宅 趾買収」「浅野侯爵閣下」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。神戸は丹羽郡長。浅野史跡顕彰会長。『松井茂自伝』342頁によれば、1917年4月27日宅趾碑除幕式が行われる。工事竣工から2年で竣成したとの記述あり。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[12]</p> <p>仮番号 374</p>
120	菊池武文書簡	菊池武文	松井茂	大正5年4月21日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「当社並に奥宮へ御参拝御成下御神社の御発展並に多大の好影響は勿論地方民一般の敬神思想而上に不少な感化を及し候事」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 菊池は砥廉神社宮司</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[15]</p> <p>仮番号 43</p>
121	木下正中書簡	木下正中	松井茂	大正5年7月17日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「貴兄始め当局者の清水君に対する御同情は本人も十分承諾致居、此際之処置としては致し方なし」本人の地位も変動「未来ある学者を」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>用紙 木下正中用箋</p> <p>備考 松井学兄。書簡367と同じ。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[16]</p> <p>仮番号 284</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
122	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	松井茂	〔明治34年〕4月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「此度欧米巡視を命せられ候由貴公一身の為めのみならず吾か警察の為め欣賀之事」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井君。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[18]</p> <p>仮番号 311</p>
123	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	松井茂	〔明治39年〕9月8日	<p>数量 1通</p> <p>内容 東京市電値上げ反対事件での暴動の様子。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[20]</p> <p>仮番号 130</p>
124	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	松井茂	大正4年7月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 菓子器寄贈への礼状。「愛知県産蚕発達は頗る顕著にて長野群馬等の壘を摩せんとするの勢あり。御大典用の織物三龍社に命せられたるやに承候。悠紀田と共に愛知県殊に三河の光栄と存候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[26]</p> <p>仮番号 62</p>
125	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	松井茂	9月23日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「来る十月十三四日の頃出向可得」「標本米壱袋承受」「本月末か来月一二日頃帰京」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[28]</p> <p>仮番号 97</p>
126	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	松井茂	9月30日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「来る十四日開催愛知支部大会には臨場確定候。然るに十五日午後には是非在京を要する用務之有」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>用紙 便箋</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[29]</p> <p>仮番号 3</p>
127	〔清浦奎吾書簡〕	〔清浦奎吾〕	松井茂	10月21日	<p>数量 1通</p> <p>内容 別冊</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井君。作成者は推定</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[30]</p> <p>仮番号 113</p>

松井茂関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
128	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	松井茂	12月10日	数量 1通 内容 「大坂硫曹肥料会社重役石井重任儀会社業務に付岡谷惣助氏と交渉之件」 記述法 墨書 備考 松井知事殿。 複製 冊子複製版 第3冊[31] 仮番号 233
129	桐島像一書簡	桐島像一	松井茂	5月12日	数量 1通 内容 「今回御上京を幸い御高話御聴」「来る十四日午後五時木挽町」 記述法 墨書 備考 松井茂殿。 複製 冊子複製版 第3冊[33] 仮番号 174
130	金原明善書簡	金原明善	松井茂	大正3年11月16日	数量 1通 内容 山崎氏。「中泉農学校長細田氏は熱心なる出張人」 記述法 墨書 備考 松井大人。 複製 冊子複製版 第3冊[35] 仮番号 183
131	金原明善書簡	金原明善	松井茂	〔大正4年〕11月25日	数量 1通 内容 御大典に付 山崎延吉君静養中 記述法 墨書 備考 年は推定。金原は浜松市出身の実業家。天竜川治水に尽力。1915年5月27日の御田植式に参列。 複製 冊子複製版 第3冊[38] 仮番号 12
132	金原明善書簡	金原明善	松井茂	5月18日	数量 1通 記述法 墨書 備考 松井様。 複製 冊子複製版 第3冊[40] 仮番号 175
133	金原明善書簡	金原明善	松井茂	12月15日	数量 1通 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第3冊[42] 仮番号 225

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
134	Kushibiki Yumeto書簡	Kushibiki Yumeto	松井茂	大正5年5月4日	<p>数量 1通</p> <p>内容 All members of the party beg express their hearty appreciation of the courtesies extended to them by Hon, Shigeru Matsui, Governor of Aichi Providence.</p> <p>記述法 タイプ</p> <p>用紙 OFFICE IMPERIAL HOTEL TOKYO, JAPAN ART SMITH</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[44]</p> <p>仮番号 338</p>
135	久保田政周書簡	久保田政周	松井茂	〔明治39年〕5月11日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「兼て御希望之件岡氏に詰合大要同意」「付ては同氏の氣付に依り伊藤統監に御面会相成候方好都合とのことに有之」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 『松井茂自伝』223-225頁によると、松井は1906年、岡喜七郎（韓国統監府警務総長）から韓国統監府理事官への赴任を勧められる。松井は後日、統監府理事官兼統監府警視として釜山勤務を希望する旨を岡に打診。同年6月19日、岡の紹介で伊藤博文韓国統監と面談。同年8月11日、釜山理事官に任命される。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[45]</p> <p>仮番号 4</p>
136	久保田政周書簡	久保田政周	松井茂	〔大正5年〕4月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「先般行啓之際豊橋駅に於ける事故に付貴官初め警察部長同署長進退伺」「右は宮内省及東宮職打合之結果不問に付せられ</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井博士閣下。久保田は1915年7月-1916年10月内務次官。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[47]</p> <p>仮番号 42</p>
137	久米金弥書簡	久米金弥	松井茂	明治39年4月2日	<p>数量 1通</p> <p>内容 松井の勇退について。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年月は推定。久米は農商務省特許局長。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[49]</p> <p>仮番号 223</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
138	倉知鉄吉書簡	倉知鉄吉	松井茂	10月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「明後日の二日続きの休日を利用し離宮参観の為貴地に参上仕候積」。熱田神宮</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井学兄。差出人は「倉知生」。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[51]</p> <p>仮番号 246</p>
139	倉知鉄吉書簡	倉知鉄吉	松井茂	10月19日	<p>数量 1通</p> <p>内容 東沢氏の御口添に依り貴地諸有力者との面議を得且産業の一部をも知悉するを得</p> <p>記述法 墨書</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[55]</p> <p>仮番号 192</p>
140	倉富勇三郎書簡	倉富勇三郎	松井茂	〔大正5年〕7月5日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「岡崎も遂に市制施行之事に相成り」「村山誠一郎之希望」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井閣下。1916年7月1日岡崎市に市制施行。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[58]</p> <p>仮番号 278</p>
141	国府種徳書簡	国府種徳	松井茂	大正4年5月31日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「昨夜保存協会の常務委員会有之」「御来翰の趣頼倫侯へ申上候処九月上旬ならば今の所予定も無之候得者多分御厄介に参ることを得べきかと申居られ候爵を始め協会の役員たる諸博士も欣ひ居られ候。小生の講演などは今は第二の問題に御座候」追伸「大礼記録編纂委員会の事務囑託を命せられし為出張」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。差出人は姓のみ。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[60]</p> <p>仮番号 180</p>
142	国分象太郎書簡	国分象太郎	松井茂	〔明治40年〕6月18日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「貴地に出張の際は卒爾の事とて旅費等交付の暇無之」旅費立替分の送付</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井理事官殿。松井は1906年8月釜山理事官、1907年8月韓国内部警務局長。国分は統監府書記官兼統監秘書官。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[63]</p> <p>仮番号 369</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
143	国分象太郎書簡	国分象太郎	松井茂	〔大正5年〕5月9日	<p>数量 1通</p> <p>内容 本月十三日朝鮮貴族総会を貴族会館に於て開く事に相成居候」追伸「木内氏京都府知事就任」「必らずや報効なるべく予期せられ候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井茂殿。木内重四郎は1916年4月28日京都府知事に就任。国分は元韓国統監府秘書官。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[66]</p> <p>仮番号 171</p>
144	小橋一太書簡	小橋一太	松井茂	〔大正5年〕7月3日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「三溝技師転任せし免かれんとする由」「同人は多年砂防工事に従事」「功績も不少」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井老台。三溝は愛知県技師三溝謹平。1916年9月18日、滋賀県林業技師へ転任か。小橋は内務省土木局長（1914年3月から1918年4月）。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[70]</p> <p>仮番号 277</p>
145	小松原英太郎書簡	小松原英太郎	松井茂	〔明治40年〕7月18日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「貴地東洋協会委員部組織之御配慮」「先日御地時事新報社主内山守太郎氏来訪」「東洋協会は大体の指導若くは紹介位に止まり内山氏の申す如き一箇之に専託するか如き細目の仕事は得出来難し」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井賢台。1907年10月、東洋協会専門学校京城分校設立。小松原は1912—1919年、東洋協会専門学校校長。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[73]</p> <p>仮番号 372</p>
146	榊原昇造書簡	榊原昇造	松井茂	11月26日	<p>数量 1通</p> <p>内容 帰京の途次岡崎に立寄の件 額田郡書記塚本亮範氏に同行</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 榊原は元陸軍築城本部長（中将）。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[75]</p> <p>仮番号 14</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
147	阪谷芳郎書簡	阪谷芳郎	松井茂	〔明治35年〕1月20日	数量 1通 内容 論文寄贈感謝。消防協会の名誉会員推選の旨通知あり。感謝。 記述法 墨書 備考 年は鉛筆。松井茂様。 複製 冊子複製版 第3冊[78] 仮番号 293
148	阪谷芳郎書簡	阪谷芳郎	松井茂	〔明治40年〕3月2日	数量 1通 内容 『消防叢譚』送付感謝 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第3冊[79] 仮番号 145
149	坂仲輔書簡	坂仲輔	松井茂	〔明治39年〕4月24日	数量 1通 内容 松井の官房主事免官について。 記述法 墨書 備考 年は推定。坂は内務官僚。後の茨城県知事、石川県知事、新潟県知事。 複製 冊子複製版 第3冊[80] 仮番号 212
150	阪本鈺之助書簡	阪本鈺之助	松井茂	〔明治35年〕4月10日	数量 1通 内容 「一昨日」「御帰朝」「殊に赴任後早々に市中大火」「目下善後策に付頗る苦慮」「将来之施設に付是非御高説拝聴仕度」 記述法 墨書 備考 松井賢兄。1902年か（阪本は1902年2月より福井県知事。1902年3月に福井市橋北大火。松井は1902年4月8日欧米視察より帰朝）。 複製 冊子複製版 第3冊[84] 仮番号 295
151	阪本鈺之助書簡	阪本鈺之助	松井茂	〔大正4年〕10月7日	数量 1通 内容 御大典関係事務打ち合わせ 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第3冊[86] 仮番号 65
152	阪本鈺之助書簡	阪本鈺之助	松井茂	〔大正4年〕11月4日	数量 1通 内容 東京新聞各種切抜之如き記事拝見 北白川宮殿下御任 記述法 墨書 備考 年は推定。1915年12月北白川宮成久王は第三師団砲兵第三連隊に勤務。 複製 冊子複製版 第3冊[89] 仮番号 17

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
153	阪本鈺之助書簡	阪本鈺之助	松井茂	3月2日	数量 1通 内容 吉田緑在病床危篤に付特旨叙位 記述法 墨書 備考 松井明府閣下 複製 冊子複製版 第3冊[91] 仮番号 241
154	阪本鈺之助書簡	阪本鈺之助	松井茂	5月21日	数量 1通 内容 「下水道拡張工事費の国庫補充の義土木局にて取調中」「大正六年度予算」 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第3冊[93] 仮番号 37
155	阪本鈺之助書簡	阪本鈺之助	松井茂	5月29日	数量 1通 内容 薩摩風の鮓をつけさし上るか 記述法 ペン 備考 年は推定。松井明府。 複製 冊子複製版 第3冊[96] 仮番号 71
156	阪本鈺之助書簡	阪本鈺之助	松井茂	8月23日	数量 1通 内容 先日帰任の車中に岡喜七郎、杉山四五郎両氏あり 記述法 ペン 備考 知事閣下。名古屋市役所用箋。 複製 冊子複製版 第3冊[97] 仮番号 104
157	阪本鈺之助書簡	阪本鈺之助	松井茂	10月17日	数量 1通 記述法 墨書 備考 松井明府閣下。 複製 冊子複製版 第3冊[98] 仮番号 184
158	阪本鈺之助書簡	阪本鈺之助	松井茂	10月20日	数量 1通 内容 議員 議長 記述法 墨書 備考 阪本は名古屋市長（1911～1917）。松井明府閣下。 複製 冊子複製版 第3冊[100] 仮番号 27
159	阪本鈺之助書簡	阪本鈺之助	松井茂	12月16日	数量 1通 内容 「市部経済調査」「十分了解仕候得共、小生共の立場としては市の財産保持上不得已主張に有之」 記述法 墨書 備考 松井明府閣下。 複製 冊子複製版 第3冊[103] 仮番号 348

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
160	笹原辰太郎書簡	笹原辰太郎	松井茂	〔明治35年〕10月25日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「過日出京の義は万事御信切の御取扱に接し特に万国消防の粋の粋なる所を」「他日貴下の説を供し」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。静岡賀茂郡長</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[105]</p> <p>仮番号 303</p>
161	佐藤正書簡	佐藤正	松井茂	〔明治35年〕4月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「実は昨日は必らず芸伎協会に出席之事</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井茂殿。佐藤は陸軍少将。広島県出身。広島市長。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[108]</p> <p>仮番号 329</p>
162	澤田牛麿書簡	澤田牛麿	松井茂	〔明治39年8月〕30日	<p>数量 1通</p> <p>内容 着任の報に接し挨拶</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。作成者は推定。松井殿。澤田は韓国統監府警視（『松井茂自伝』228頁）。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[110]</p> <p>仮番号 128</p>
163	塩川三四郎書簡	塩川三四郎	松井茂	〔大正3年〕10月18日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「名古屋経済界の為又市民の為感謝にたえず」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井博士閣下。塩川は日本銀行名古屋支店長。1914年8月2日、名古屋銀行で取り付け騒ぎが発生。『松井茂自伝』362頁。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[111]</p> <p>仮番号 191</p>
164	志賀重昂書簡	志賀重昂	松井茂	大正5年6月16日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「御高庇の結果郷里岡崎町も市制執行と相成り候在京岡崎人も大に欣喜致居候段厚く奉感謝候」。市制執行祝賀会への内務大臣臨席、市制執行記念講演会での松井の講話、講演会に内務省より自治関係の高等官出講を願う。講演会には高田文部大臣と床次氏の出講、小林丑三郎と志賀の講演あり。</p> <p>記述法 ペン</p> <p>用紙 罫紙</p> <p>備考 地理調査会仮事務所罫紙</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[114]</p> <p>仮番号 177</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
165	重田定一書簡	重田定一	松井茂	〔大正4年〕9月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「悠紀齋田案内一部」頒与の件。「大礼の要旨」と題する小冊子文部省より出版諸学校に配布是によりて生徒に講話をする手筈</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[115]</p> <p>仮番号 91</p>
166	嶋田満書簡	嶋田満	松井茂	〔明治39年〕9月2日	<p>数量 1通</p> <p>内容 敷地買収 敷地整理費及買収費之予算</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[117]</p> <p>仮番号 129</p>
167	島田文之助書簡	島田文之助	松井茂	〔大正5年〕1月21日	<p>数量 1通</p> <p>内容 進勲を祝う。「昨秋の御大典に際しては容易ならさる御尽力なりしに依り素より当然之仕事には候得共御管轄内に職を奉し御厚誼を辱ふする小生等に於ては衷心より一層欣躍に堪へさる心地故</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井賢兄。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[120]</p> <p>仮番号 206</p>
168	清水澄書簡	清水澄	松井茂	〔大正5年〕29日	<p>数量 1通</p> <p>内容 清水の知人が岡崎市長就任の交渉を受ける。「就ては豊橋市は市政上面倒なる処に候へば市長就職を見合はずべく又反対に左迄面倒ならざる処に候へば」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 愛知県岡崎市は1916年7月1日から市制施行。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[123]</p> <p>仮番号 72</p>
169	清水彦五郎書簡	清水彦五郎	松井茂	〔明治39年〕9月24日	<p>数量 1通</p> <p>内容 韓国赴任当日の見送りに遅れたことを謝罪</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。清水は高等商業学校長。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[125]</p> <p>仮番号 133</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
170	下岡忠治書簡	下岡忠治	松井茂	〔大正3年〕10月2日	<p>数量 1通</p> <p>内容 電車騒擾について。「大隈内相も事件之重大なり少し他に波及する虞あるか為非常に心痛相成居候」。一度上京して報告することを</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。下岡は内務次官。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[127]</p> <p>仮番号 243</p>
171	下岡忠治書簡	下岡忠治	松井茂	〔大正3年〕10月8日	<p>数量 1通</p> <p>内容 電車問題について同情。「大隈内相も不断憂慮相成其結果に付屢々督促有之候に付可成関係者を諭して一日も早く円満なる解決を見る様御配慮相成度。尚到底市と会社との間に於て妥協之見通無之候は、貴下に於て断然たる御処置相成事然為候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[132]</p> <p>仮番号 245</p>
172	下岡忠治書簡	下岡忠治	松井茂	〔大正5年〕4月12日	<p>数量 1通</p> <p>内容 『悠紀斎田記録』送付に感謝 松澤清義、工場法施行の本旨を達し</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。下岡は前内務次官</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[137]</p> <p>仮番号 147</p>
173	浄法寺五郎書簡	浄法寺五郎	松井茂	〔大正2年〕11月21日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「過般演習中は一方ならぬ御配慮に預り」感謝</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。浄法寺五郎は陸軍軍人。歩兵第29旅団長。1913年11月、愛知県で陸軍大演習挙行される。</p> <p>複製 冊子複製版 第3冊[139]</p> <p>仮番号 35</p>
174	末弘直方書簡	末弘直方	松井茂	〔明治39年〕4月21日	<p>数量 1通</p> <p>内容 松井の勇退を憫れむ。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。末弘は内務官僚。岩手県知事、小倉市長。末弘ヒロ子の父。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[1]</p> <p>仮番号 214</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
175	杉山茂丸書簡	杉山茂丸	松井茂	〔明治39年〕1月20日	数量 1通 内容 挨拶 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第4冊[4] 仮番号 139
176	杉山茂丸書簡	杉山茂丸	松井茂	〔明治40年〕3月2日	数量 1通 内容 釜山湊一件 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第4冊[7] 仮番号 144
177	杉山茂丸書簡	杉山茂丸	松井茂	6月20日	数量 1通 記述法 墨書 備考 松井知事殿。 複製 冊子複製版 第4冊[10] 仮番号 273
178	杉山茂丸書簡	杉山茂丸	松井茂	7月5日	数量 1通 内容 「小生門生深野英二今回名古屋市庁の」赴任 記述法 墨書 備考 松井知事閣下。 複製 冊子複製版 第4冊[14] 仮番号 340
179	杉山茂丸書簡	杉山茂丸	松井茂	7月15日	数量 1通 記述法 墨書 備考 松井知事殿。 複製 冊子複製版 第4冊[17] 仮番号 279
180	杉山茂丸書簡	杉山茂丸	松井茂	11月	数量 1通 内容 御管下海部郡 南陽日高村地之埋立延期に付 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第4冊[20] 仮番号 18
181	鈴置倉次郎書簡	鈴置倉次郎	松井茂	5月24日	数量 1通 内容 友人近藤岩吉君を紹介、引見を求む。同君は同志会支部常任幹事。 記述法 墨書 備考 鈴置倉次郎か。衆議院議員（同志会）。 複製 冊子複製版 第4冊[22] 仮番号 40

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
182	鈴木定直書簡	鈴木定直	松井茂	〔明治34年〕8月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「消防及警察一般の御視察」「将来之施設に供せられ度」転任の挨拶</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井茂殿。年は推定。鈴木は1901年6月より警保局長。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[24]</p> <p>仮番号 320</p>
183	鈴木惣兵衛書簡	鈴木惣兵衛	松井茂	6月4日	<p>数量 1通</p> <p>内容 御参考上に進呈</p> <p>記述法 墨書</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[27]</p> <p>仮番号 254</p>
184	鈴木惣兵衛書簡	鈴木惣兵衛	松井茂	10月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「昨日は格別之御待遇を蒙り」「殊に仁保博士御高談を拝聴」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井賢兄。仁保博士は仁保亀松京都帝大教授。池田は愛知県の実業家。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[28]</p> <p>仮番号 190</p>
185	鈴木書簡	鈴木	松井茂	8月6日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「名古屋を東京と間違へ」松井茂宅と誤って某家の電話に間違っかけて。岡崎で一泊、翌朝暴風雨を侵し八時過ぎの汽車で出発。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井閣下。書簡356と要照合。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[30]</p> <p>仮番号 101</p>
186	関和知書簡	関和知	松井茂	11月6日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「先日名古屋市へ出張之際は種々深甚なる御配慮に預り殊に重々御寵招を辱し御懇情千万奉感謝候」「尚帰京後大臣次官等に親しく御話の次第相伝申候間」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井愛知県知事殿。関は衆議院議員。第二次大隈内閣の司法副参政官。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[36]</p> <p>仮番号 187</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
187	世古祐次郎書簡	世古祐次郎	松井茂	明治30年10月13日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。世古は高松地方裁判所検事正。松井茂の解説あり「余の氏と共に香川県にあるや余は司法警察の発展を期し特に警察部には専任の警部を置き又司法警察官に対する進退上に就ては其成績に重きを置きたりき。氏も亦之を多とし余と親交あり。之れ君の去りて和歌山県に転したる時の書翰なり」</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[39]</p> <p>仮番号 77</p>
188	千家尊福書簡	千家尊福	松井茂	9月6日	<p>数量 1通</p> <p>内容 和田信一郎採用の件 林業</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井知事殿。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[41]</p> <p>仮番号 231</p>
189	仙波太郎書簡	仙波太郎	松井茂	〔大正5年〕4月12日	<p>数量 1通</p> <p>内容 悠紀斎田記録御恵送に御礼</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[43]</p> <p>仮番号 44</p>
190	園田安賢書簡	園田安賢	松井茂	明治30年10月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「却説御案内之通条約実施も数年と相迫り候に付ては 其中警察事務も一層秩序的文明に一大刷新を加へざる可からざるは勿論之事に付従来の御勉学其力を致すの時機も将に遠きに阿らざるべく候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。『松井茂自伝』124頁に翻刻あり（ただし翻刻版の日付は12月13日）松井茂の解説「余の香川県警部長時代に於て条約改正も近きにある故其学ぶ所を实地に施すも近きにあるへしとて奨励せられたるもの」</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[44]</p> <p>仮番号 73</p>
191	園田安賢書簡	園田安賢	松井茂	明治34年2月23日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 園田は元警視總監、北海道庁長官。年は解説による。松井の解説「黒江軍吾氏の身上を消防界に依頼し来りたるものなるも終に其希望に副ふこと能はさりしなり」</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[47]</p> <p>仮番号 155</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
192	高楠順次郎書簡	高楠順次郎	松井茂	〔明治35年4月〕22日	数量 1通 内容 「過般御帰京」 記述法 墨書 備考 年月は推定。松井老台。 複製 冊子複製版 第4冊[50] 仮番号 327
193	高崎親章書簡	高崎親章	松井茂	〔明治34年〕5月2日	数量 1通 内容 「今般欧米各国に御渡航之由」「警察事務取調之為め欧米へ出張せし人は数多有之」「経験と學術とに孰つれか欠くる処有之」 記述法 墨書 備考 松井茂殿。年は推定。 複製 冊子複製版 第4冊[51] 仮番号 316
194	高崎親章書簡	高崎親章	松井茂	〔明治35年〕12月24日	数量 1通 内容 御著述之冊子御贈与に預り 記述法 墨書 備考 年は推定。差出人は「高崎」。高崎親章か。高崎は大阪府知事。 複製 冊子複製版 第4冊[55] 仮番号 294
195	高崎親章書簡	高崎親章	松井茂	3月23日	数量 1通 内容 「小浜之転勤」 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第4冊[57] 仮番号 309
196	高崎親章書簡	高崎親章	松井茂	5月7日	数量 1通 内容 旭陶器会社の創設、工場取締について 記述法 墨書 備考 松井知事閣下。 複製 冊子複製版 第4冊[59] 仮番号 170
197	高崎親章書簡	高崎親章	松井茂	5月10日	数量 1通 内容 旭陶器会社の設置、工場取締について 記述法 墨書 備考 松井知事閣下。 複製 冊子複製版 第4冊[62] 仮番号 173

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
198	高崎親章書簡	高崎親章	松井茂	8月10日	数量 1通 内容 著述の贈与に多謝 記述法 墨書 備考 松井老台。 複製 冊子複製版 第4冊[65] 仮番号 197
199	高津鋏三郎書簡	高津鋏三郎	松井茂	大正5年4月15日	数量 1通 内容 「悠紀斎田記録耆部御恵贈され正に拝受仕候」 記述法 墨書 備考 高津は愛知社幹事。国分学者。 複製 冊子複製版 第4冊[67] 仮番号 41
200	高松豊吉書簡	高松豊吉	松井茂	〔大正5年〕6月19日	数量 1通 内容 「貴地商品陳列所長山口貴雄氏今回大阪府商品陳列所長に転任」後任候補者に工学士の市川俊雄氏 記述法 墨書 備考 年は推定。松井知事殿。高松は工業試験所技師。山口貴雄は1916年11月、愛知県立商品陳列所館長を辞任（『愛知県立商品陳列所要覧』1922年版3頁）。 複製 冊子複製版 第4冊[69] 仮番号 178
201	田口恵書簡	田口恵	松井茂	7月23日	数量 1通 記述法 墨書 備考 松井様。 複製 冊子複製版 第4冊[72] 仮番号 287
202	籀華弘書簡	籀華弘	松井茂	〔大正3年4月〕	数量 1通 内容 漢詩「奉悼昭憲皇太后陛下之崩御」（七言律詩） 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第4冊[76] 仮番号 164
203	籀華弘書簡	籀華弘	松井茂	〔大正3年〕	数量 1通 内容 漢詩「帝国膠州湾攻戦」 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第4冊[78] 仮番号 165
204	籀華弘書簡	籀華弘	松井茂	〔大正3年〕	数量 1通 内容 漢詩「全欧州戦争」 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第4冊[79] 仮番号 166

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
205	籀華弘書簡	籀華弘	松井茂		数量 1通 内容 漢詩「悠紀齋田」 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第4冊[81] 仮番号 167
206	田中国吉書簡	田中国吉	松井茂	〔明治39年〕7月26日	数量 1通 内容 現市長の辞表提出に伴い、広島市長立候補の内意を松井に打診。「若し君にして応諾の意あらば改めて公然と市の有力者中より申込をなさしむる積に有之候」 記述法 墨書 備考 『松井茂自伝』225頁に広島市長打診の経緯について記載あり。松井は直ちに返書し、「市長の職は公共的に最も重大なり。然れども余は大学卒業後一意専心、終生を警察社会の為に捧ぐるの一大決心を有するものなる故、折角の御好意なるも、毛頭も市長の職に就くの考へなき」旨を回答して断る。 複製 冊子複製版 第4冊[82] 仮番号 5
207	田中貴道書簡	田中貴道	松井茂	明治33年10月27日	数量 1通 内容 転任之辞令に接す 記述法 墨書 備考 年は解説による。田中は1900年10月25日より警保局長。松井の解説「突然局長の辞令に接す有松君と共に援助し呉れと云ふに有り」。 複製 冊子複製版 第4冊[87] 仮番号 150
208	田中貴道書簡	田中貴道	松井茂	〔明治35年〕2月19日	数量 1通 内容 公道会四谷部会にて御高話相成申候公德と警察中に小生も公德説話並に大和田氏の公德唱歌講読致候 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第4冊[90] 仮番号 307
209	田中貴道書簡	田中貴道	松井茂	〔明治39年〕6月2日	数量 1通 内容 松井の勇退について。 記述法 墨書 備考 年は推定。松井賢台。 複製 冊子複製版 第4冊[92] 仮番号 220

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
210	谷本富書簡	谷本富	松井茂	大正4年10月28日	数量 1通 内容 東本氏 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第4冊[95] 仮番号 16
211	谷本富書簡	谷本富	松井茂	大正4年12月3日	数量 1通 内容 来る12日「婚儀」の件 記述法 墨書 備考 松井老兄。1915年12月12日、松井の長女・節は、森本確也の二男・達也と結婚。 複製 冊子複製版 第4冊[97] 仮番号 270
212	田部正壮書簡	田部正壮	松井茂	〔大正5年〕1月1日	数量 1通 内容 謹賀新年 記述法 墨書 備考 松井知事閣下。田部は広島市長 複製 冊子複製版 第4冊[99] 仮番号 242
213	俵孫一書簡	俵孫一	松井茂	〔大正5年〕1月29日	数量 1通 内容 叙勲を祝う。「次に三重県農工銀行重役改選の騒動に付一寸申上度」 記述法 ペン 備考 年は推定。俵は元三重県知事（1912～1914年）。1916年当時、北海道庁長官。 複製 冊子複製版 第4冊[100] 仮番号 209
214	趙重應書簡	趙重應	松井茂	〔明治40年〕6月17日	数量 1通 内容 「朴公事奉頼伊藤統監之専力斡旋乃有」「旅費五拾円」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井茂殿。趙は1907年5月法部大臣。1907年6月、韓国から国外追放中の朴泳考が釜山に上陸。法部大臣の趙が急遽釜山を訪れ、朴の身柄について松井と協議。同13日、伊藤博文統監は朴の特赦を恩命を下す。同19日、朴は京城に向け出発（『松井茂自伝』233—234頁）。 複製 冊子複製版 第4冊[101] 仮番号 368
215	土澤書簡	土澤	松井茂	〔大正4年〕11月22日	数量 1通 内容 「御供米御分配」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井老兄。 複製 冊子複製版 第4冊[108] 仮番号 25

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
216	土屋光春書簡	土屋光春	松井茂	〔大正3年〕6月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「昨年貴地方に於て行はせられたる特別大演習に関する記録壺冊態々御郵送被下昨廿六日正に落手仕候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。1913年11月、名古屋で特別大演習。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[110]</p> <p>仮番号 263</p>
217	都筑馨六書簡	都筑馨六	松井茂	1月14日	<p>数量 1通</p> <p>内容 昨日「広島名産かき一籠御恵送」感謝。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老兄。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[111]</p> <p>仮番号 116</p>
218	都筑馨六書簡	都筑馨六	松井茂	25日	<p>数量 1通</p> <p>内容 病気見舞感謝。「然に右は新聞の誤報にて小生は目下頗る健全」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老兄。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[113]</p> <p>仮番号 114</p>
219	角田真平書簡	角田真平	松井茂	明治37年1月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 魚河岸問題に付本日詳細協議。出願の年数について諸説。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は鉛筆で加筆</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[115]</p> <p>仮番号 46</p>
220	角田真平書簡	角田真平	松井茂	11月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 人物紹介</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井愛知県知事殿。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[118]</p> <p>仮番号 181</p>
221	津村光華書簡	津村光華	松井茂	7月8日	<p>数量 1通</p> <p>内容 恩田篤氏 園芸試験所</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 津村は平曲師。浅野侯爵家扶持。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[119]</p> <p>仮番号 52</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
222	津村光華・森島権二書簡	津村光華・森島権二	松井茂	〔大正4年〕7月8日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「先般其他従一位様御出之節」その他種々の招待に感謝。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 津村、森島ともに浅野家扶持。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[121]</p> <p>仮番号 53</p>
223	豊島陽蔵書簡	豊島陽蔵	松井茂	〔大正3年〕2月12日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「市長就任」「大に迷惑」「過日大演習之関する写真帖」「書記に人物無くては殆んど閉口仕居とに就ては壮年之法学士にて適當なる人物有之候得は採用致度に付</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。差出人は「政蔵」。松井君。262土屋光喜書簡を参照。1913年名古屋で陸軍大演習。豊島は広島県出身、陸軍中将。第10代広島市長（1914年1～3月）。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[123]</p> <p>仮番号 234</p>
224	道家斉書簡	道家斉	松井茂	〔大正3年〕4月25日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「齋田の儀に関しては種々御配慮相成候処幸に継続と相定誠に御同慶の至に</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井茂殿。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[127]</p> <p>仮番号 250</p>
225	道家斉書簡	道家斉	松井茂	〔大正5年〕1月26日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「陳者今次叙勲之御光栄に浴せられ候趣恐悦至極」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。道家は農商務官僚。後の農商務省水産局長、農務局長。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[129]</p> <p>仮番号 208</p>
226	戸川安宅書簡	戸川安宅	松井茂	〔大正〕5月11日	<p>数量 1通</p> <p>内容 佐久間老台の</p> <p>記述法 ペン</p> <p>用紙 便箋</p> <p>備考 松井君閣下。戸川は詩人、宣教師。</p> <p>複製 冊子複製版 第4冊[131]</p> <p>仮番号 172</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
227	戸川安宅書簡	戸川安宅	松井茂	3月1日	数量 1通 内容 今回も非常の 汽車中 長官以下 金沢 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第4冊[132] 仮番号 240
228	徳川達孝書簡	徳川達孝	松井茂	〔明治35年〕8月12日	数量 1通 内容 「過般火曜会に於て御演説」の速記録を送付。校正依頼。「過日は四谷弘道会部会に於て御高説拝聴」 記述法 墨書 備考 松井茂殿。松井茂「公德と警察」『警察協会雑誌』第30号（1902年11月）。1902年7月29日日本弘道館で講演。 複製 冊子複製版 第4冊[134] 仮番号 301
229	徳久恒範書簡	徳久恒範	松井茂	明治34年4月11日	数量 1通 記述法 墨書 備考 年は解説による。徳久は熊本県知事（松井が香川県警察部長時代の同県知事）。松井の解説「余の洋行に関し平素囑望せることとて之を喜び十分警察の事を取調べ帰朝の後には警察博士となり警察事務に一生面を与へよと云ふ」 複製 冊子複製版 第4冊[137] 仮番号 159
230	徳久恒範書簡	徳久恒範	松井茂	〔明治36年〕7月9日	数量 1通 内容 「今般転任に付」「広島」「船越男」 記述法 墨書 備考 年代は推定。松井茂殿。徳久は1903年6月29日～1904年1月25日広島県知事。 複製 冊子複製版 第4冊[140] 仮番号 195
231	戸水寛人書簡	戸水寛人	松井茂	〔明治35年〕5月1日	数量 1通 内容 「ご丁寧なる御手紙難有し」「御旅行中の御話」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井茂様。 複製 冊子複製版 第4冊[143] 仮番号 330

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
232	戸水寛人書簡	戸水寛人	松井茂	〔明治35年〕7月4日	数量 1通 内容 「東洋倶楽部と称する青年団体に於て呉汝論及び鎮国將軍を招き度との考を抱き之に付ては何卒御出席 記述法 墨書 備考 松井茂様。年は推定。呉汝論は京師大学堂総教習。鎮国將軍は肅親王善耆。呉と肅親王は1902年7月来日。 複製 冊子複製版 第4冊[144] 仮番号 297
233	戸水寛人書簡	戸水寛人	松井茂	8月27日	数量 1通 内容 著書寄贈への礼状 記述法 墨書 備考 松井茂様。 複製 冊子複製版 第4冊[146] 仮番号 59
234	留岡幸助書簡	留岡幸助	松井茂	12月16日	数量 1通 内容 「昨日久方振りに山内一次君を訪ひ快談」「地方充実を聴き賛同」 記述法 墨書 備考 松井明府閣下 複製 冊子複製版 第4冊[147] 仮番号 238
235	長岡外史書簡	長岡外史	松井茂	5月5日	数量 1通 内容 「何■と無く御相談」 記述法 ヘン 備考 松井明府殿。 複製 冊子複製版 第5冊[1] 仮番号 341
236	中川友次郎書簡	中川友次郎	松井茂	〔明治39年〕4月22日	数量 1通 内容 松井の勇退について。「警察行政界に於て一時たりとも研究の■退することあるは迷惑に不堪る次第」 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第5冊[2] 仮番号 216
237	長島弘裕書簡	長島弘裕	松井茂	〔大正3年〕5月21日	数量 1通 内容 「今般市長任期滿了」市長辞任を決心 記述法 墨書 備考 年は推定。長島は第2代静岡市長（1902～1914年）。1914年に2期目の任期滿了。 複製 冊子複製版 第5冊[4] 仮番号 253

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
238	長杉藤吉郎書簡	長杉藤吉郎	松井茂	〔明治39年〕4月20日	<p>数量 1通</p> <p>内容 松井の勇退について。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[9]</p> <p>仮番号 219</p>
239	永谷常脩書簡	永谷常脩	松井茂	明治31年11月2日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「警察の執務上は多年の経験を要することなれば庁員にて多少の経験ある向きは其職に永任せしめ」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。永谷は元警視庁第一部長。松井の解説（抜粋）「時に永谷常脩氏は久しく警視庁の要職にありたる者余に一書を裁して旧部下を愛護すへきを申来る蓋し至情の発する所なるへしと然れとも余は尋て忽ち憲政党内閣の瓦解となり新に大浦兼武警視総監となるや消防界に於ては四十四人の判任官に対して其九人の無能者の淘汰を上申決行するに至れり是れ亦余が警察改善の為至情の発する所にして他意あるに非ざりしなり。松井は1898年11月から警視庁第二部長兼消防部長。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[11]</p> <p>仮番号 82</p>
240	中村進午書簡	中村進午	松井茂	〔明治39年〕1月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 『日本法政新誌』明治40（1907）年一月号への寄稿依頼。12月15日まで</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[14]</p> <p>仮番号 141</p>
241	生江孝之書簡	生江孝之	松井茂	7月19日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「今回感化救済事業講習会開催のため貴地出張中は万全の御芳情御高配を蒙り開催中幸にして大過なきを得たるは誠に感謝に不堪る次第に御座候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井知事閣下。生江は内務省嘱託。社会事業家。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[16]</p> <p>仮番号 285</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
242	成瀬正雄書簡	成瀬正雄	松井茂	〔大正3年〕6月28日	数量 1通 内容 陸軍特別大演習記録贈与への礼状 記述法 墨書 備考 年は推定。松井知事殿。成瀬は元尾張藩家老成瀬家10代当主・子爵。 複製 冊子複製版 第5冊[19] 仮番号 266
243	南摩経紀書簡	南摩経紀	松井茂	〔明治39年〕8月15日	数量 1通 内容 韓国釜山理事官祝辞。 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第5冊[20] 仮番号 123
244	仁井田益太郎書簡	仁井田益太郎	松井茂	〔明治34年〕4月17日	数量 1通 内容 「小生先月当地へ「転勤の際は同窓諸君と一夕相会度考に有之候処日限変更の為に遂に不得」「公務の都合上五月下旬には上京可致候間其折御高話相聞度」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井学兄。仁井田は1900年11月より京都帝大教授（民事訴訟法）。松井とは東京帝国大学独法科の同窓。 複製 冊子複製版 第5冊[21] 仮番号 310
245	西ヶ谷可吉書簡	西ヶ谷可吉	松井茂	大正3年11月21日	数量 1通 内容 原田子爵 記述法 墨書 備考 松井閣下 複製 冊子複製版 第5冊[23] 仮番号 185
246	仁保亀松書簡	仁保亀松	松井茂	11月10日	数量 1通 内容 挨拶状 記述法 墨書 備考 松井兄。 複製 冊子複製版 第5冊[26] 仮番号 188
247	野口親書簡	野口親	松井茂	大正5年4月12日	数量 1通 内容 「悠紀齋田記念記録御恵贈」 記述法 墨書 備考 松井知事殿。 複製 冊子複製版 第5冊[28] 仮番号 346

松井茂関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
248	朴泳孝書簡	朴泳孝	松井茂	〔明治40年〕6月22日	数量 1通 内容 釜山での礼状。「高雄通訳官松井警部」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井茂閣下。 複製 冊子複製版 第5冊[30] 仮番号 371
249	花田仲之助書簡	花田仲之助	松井茂	大正4年8月21日	数量 1通 内容 広島帰来中の訓話への礼。講演筆記と乃木会講演集の御厚意に謝辞 記述法 墨書 備考 松井知事閣下。花田は陸軍軍人。報徳会を設立。 複製 冊子複製版 第5冊[32] 仮番号 117
250	馬場三郎書簡	馬場三郎	松井茂	大正4年10月7日	数量 1通 内容 「博恭王殿下貴管下御通過之節は種々御高配に相成」感謝 記述法 墨書 備考 馬場三郎は伏見宮附別当。 複製 冊子複製版 第5冊[35] 仮番号 64
251	浜尾新書簡	浜尾新	松井茂	明治29年12月16日	数量 1通 内容 「地方警察事務」の成功を望む。 記述法 墨書 備考 年は解説による。松井の解説「濱尾氏か余の地方警察の任に当るに際し成功を望まれたるもの」 複製 冊子複製版 第5冊[38] 仮番号 87
252	浜尾新書簡	浜尾新	松井茂	〔明治35年〕4月22日	数量 1通 内容 帰朝。「欧米御視察効果」 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第5冊[39] 仮番号 325
253	浜尾新書簡	浜尾新	松井茂	1月17日	数量 1通 記述法 墨書 備考 松井学士。 複製 冊子複製版 第5冊[40] 仮番号 115

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
254	浜島尹松書簡	浜島尹松	松井茂	〔明治39年〕4月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 警視庁改革に伴い、日比谷焼打事件の責任を明らかにして民心を新たにすると理由で松井が官房主事を免官になったことについて、反対意見を述べる。「騒擾事件に関しては先に内務大臣警視總監の引責あり命令の執行に当たりたるもの今更引責せは二重の責任に相成し理由なし。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。浜島は後に韓国警視庁第二課長。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[41]</p> <p>仮番号 210</p>
255	早川龍介書簡	早川龍介	松井茂	〔大正4年〕5月10日	<p>数量 1通</p> <p>内容 斎田 行幸</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。早川は愛知県六ツ美村長、第12回総選挙で衆議院議員（立憲同志会）。1915年6月5日、悠紀斎田御田植式。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[44]</p> <p>仮番号 375</p>
256	早川龍介書簡	早川龍介	松井茂	〔大正4年〕9月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 悠紀斎田に関する件</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。早川は愛知県六ツ美村村長、衆議院議員（同志会）。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[46]</p> <p>仮番号 92</p>
257	林市蔵書簡	林市蔵	松井茂	〔大正2年〕8月16日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「小生七月七日帰京十四日迄滞京」「廿九日発信芳書」「小生めも復地方官として」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井老台。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[48]</p> <p>仮番号 358</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
258	林市蔵書簡	林市蔵	松井茂	5月19日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「目下御会議中に存候毎年々々の政府之御訓示にては追従する所を知らさるへし」「但し党人となるの決心あれば党人として走るへし党人てなき以上は公明中庸を以て立つべきものと存」「清浦子」「併し正義には強き力るものなりたとへ与党なくとも正義を以て立ち与論を動すの力を試し度者也</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 1914年か。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[50]</p> <p>仮番号 252</p>
259	林包明書簡	林包明	松井茂	4月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「帝国公道会要務に付き疾く御訪問可力之処近府県出席之為」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>用紙 帝国公道会用箋</p> <p>備考 松井茂殿。林は民権運動家（1858-1920）。帝国公道会は1914年設立の融和団体。林は1918年時点で幹事長。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[52]</p> <p>仮番号 344</p>
260	林田書簡	林田	松井茂	〔大正3年〕6月24日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「先般内紛之件に就」「御処分に關しては各各新聞に御説明を記載し地方人民も満足之体、実に之に勝るへき策事無之</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井知事閣下。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[53]</p> <p>仮番号 259</p>
261	早速整爾書簡	早速整爾	松井茂	8月14日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「却て御来訪を受け恐縮無此上」「時機を得て一度御面会申度存居候処」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井様。早速は広島県選出の衆議院議員。書簡102と要照合。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[55]</p> <p>仮番号 356</p>
262	原敬書簡	原敬	松井茂	9月23日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「帰京後直に」「不在中に雑事に忙殺せられ 不思</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老台。差出人は「敬」</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[58]</p> <p>仮番号 26</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
263	日置黙仙書簡	日置黙仙	松井茂	〔大正3年〕9月8日	数量 1通 内容 「貴市之電車焼打は軍国之今日有間敷事に候」「出名之上面会を得て愚見を陳情」 記述法 墨書 備考 年は推定。日置は愛知県日蓮寺住職 複製 冊子複製版 第5冊[60] 仮番号 232
264	日置黙仙書簡	日置黙仙	松井茂	大正3年11月10日	数量 1通 内容 「去七日意外青嶋陥落」 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第5冊[63] 仮番号 189
265	日置黙仙書簡	日置黙仙	松井茂	7月5日	数量 1通 内容 講習の為出張 記述法 墨書 備考 松井知事殿。 複製 冊子複製版 第5冊[65] 仮番号 30
266	日置黙仙書簡	日置黙仙	松井茂	8月20日	数量 1通 内容 「時局に対し大祈祷会来る二十三日午前八〔時〕より十時之間修行仕候」 記述法 墨書 備考 松愛知県知事法学博士松井茂殿。 複製 冊子複製版 第5冊[67] 仮番号 363
267	常陸山谷右衛門書簡	常陸山谷右衛門	松井茂	〔明治40年〕1月17日	数量 1通 内容 「追て是非共渡韓仕度」 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第5冊[69] 仮番号 143
268	平岡定太郎書簡	平岡定太郎	松井茂	2日	数量 1通 記述法 墨書 備考 解説有。解説「江木広島県知事に向ひ大浦総監が余の若手丈け元気なりと評しおられたりとの事を友人平岡君か伝へ聞きて喜び来りたるなり。平岡君は当時広島県書記官なり」 江木千之は1898年12月～1903年6月広島県知事。大浦は1898年11月～1900年3月警視総監。平岡は1898年12月～1900年1月広島県書記官。松井は1898年11月～1902年4月内務書記官、警視庁第二部長。 複製 冊子複製版 第5冊[71] 仮番号 58

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
269	平田東助書簡	平田東助	松井茂	〔大正3年〕8月18日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「欧洲事变之影響遂に東亜に及び御地経済上之情勢に於ても」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井老台。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[74]</p> <p>仮番号 359</p>
270	平田東助書簡	平田東助	松井茂	7月7日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「今回之総会に 是非出席可仕存候処誠に無己次第による為今日急に見合する</p> <p>記述法 墨書</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[76]</p> <p>仮番号 31</p>
271	富士川游書簡	富士川游	松井茂	10月21日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「先年静岡県御在職之 右に開催致候日本児童学会通俗講演来二十四日御地に於て開催」「静岡の会の時の如き御話を右会場にて</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井博士。富士川は医学史家（1865～1940）。広島県出身。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[79]</p> <p>仮番号 28</p>
272	二荒芳徳書簡	二荒芳徳	松井茂	〔大正4年〕5月5日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「愛知県庁に於ける感想は小弟初仕官の地家を持てる地公人としての生涯最初の地にも有之且閣下の御指導により精神的方面も益々開拓し自重す可きを自覚仕り候次第に有之」「当県赴任の後も必や努力奮闘仕り」「尚小弟学務社寺兵事を担任」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井先生。二荒芳徳は1914年2—12月愛知県属、1914年12月—1915年4月、愛知県内務部社寺兵事課。1915年5月、静岡県学務課長兼社寺兵事課長。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[82]</p> <p>仮番号 376</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
273	二荒芳徳書簡	二荒芳徳	松井茂	大正4年9月18日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「閣下の前任地たる当県に於て御敬訓を基として多少の治績を残したく存じおり候」「乃木大将の御説話につきて石黒男爵御来名の間御 候処細田校長の御懇請を御容れ 明春（又は今冬）同男爵御来岡の由御配慮を蒙り難有存</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 二荒は1915年5月静岡県学務課長。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[86]</p> <p>仮番号 96</p>
274	船越衛書簡	船越衛	松井茂	5月22日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 茂老兄。差出人は「衛」。船越は広島出身の内務官僚。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[94]</p> <p>仮番号 106</p>
275	船越衛書簡	船越衛	松井茂	9月28日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 茂老兄。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[97]</p> <p>仮番号 107</p>
276	細田多次郎書簡	細田多次郎	松井茂	〔大正4年〕11月25日	<p>数量 1通</p> <p>内容 大嘗祭 御供物二点 御恵贈</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 前半欠落。年は推定。細田は静岡県立農学校校長。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[99]</p> <p>仮番号 11</p>
277	穂積陳重書簡	穂積陳重	松井茂	明治34年3月25日	<p>数量 1通</p> <p>内容 過般御話の件に付小生其後直かに阪谷氏に面会致候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。松井の解説「千九百零年伯林に於て万国消防博覧会開催の挙あり内務省内にては水野有松諸氏余の為に努むる所あり末松内相大森内務次官安楽警視總監等皆同意せられ余は内務書記官の資格を以て海外に派遣を命せらるることとなる時に穂積氏は阪谷氏を訪ふて余の多年警察の研究に従事する等の事情を述へて賞揚至らさるなく本邦警察界の為に成るべく永く漫遊せしめんことを望むと述へられたるものにして余の特に一箇年間の漫遊期を得たるは殊に穂積氏阪谷氏等に謝する所なり」</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[102]</p> <p>仮番号 156</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
278	穂積陳重書簡	穂積陳重	松井茂	〔明治36年〕2月23日	<p>数量 1通</p> <p>内容 新刊警察講話集御恵贈多謝 「公德と警察」警察観察談各論並に「外国人の我警察に対する観念」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井学兄。松井茂「外国人ノ我力警察二対スル観念」『警察協会雑誌』第33号（1903年1月）。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[106]</p> <p>仮番号 308</p>
279	穂積陳重書簡	穂積陳重	松井茂	〔明治40年〕3月24日	<p>数量 1通</p> <p>内容 井上友一の学位論文 目下博覧会、地方人も多く入込み混雑。道路通行法の効</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。東京帝国大学法科大学教授</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[108]</p> <p>仮番号 146</p>
280	穂積陳重書簡	穂積陳重	松井茂	〔大正3年〕6月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 二荒氏</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井学兄。二荒は1914年3月から12月に愛知県属。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[111]</p> <p>仮番号 264</p>
281	穂積陳重書簡	穂積陳重	松井茂	〔大正4年〕10月14日	<p>数量 1通</p> <p>内容 悠紀齋田記念写真帖の恵贈</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[113]</p> <p>仮番号 69</p>
282	穂積陳重書簡	穂積陳重	松井茂	大正6年8月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「先般二荒伯 休職を賜り」「当地学習院遊泳場へ来りに付緩に面会」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 二荒芳徳は1917年5月休職。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[114]</p> <p>仮番号 98</p>
283	穂積陳重書簡	穂積陳重	松井茂	5月8日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「本日本邦警察」「御恵贈」「例の論文を御完成に相成様期望仕候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井学兄。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[117]</p> <p>仮番号 336</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
284	穂積八束書簡	穂積八束	松井茂	明治33年11月19日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 穂積は東京帝国大学法科大学教授。年は解説による。松井の解説「演劇取締規則を送附したるに感謝し来れるものにして近来政府は警察の事に関して非常に注意を払ふものなりと称す」</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[119]</p> <p>仮番号 151</p>
285	穂積八束書簡	穂積八束	松井茂	〔明治34年〕5月3日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「此度の御洋行は専ら独逸にて警察上の事御取調候」「仏蘭西も御取調相成様希望致候」「且惣て法律規則等は勿論御取調可相成度」「可成實際之行為御目撃相成度」「仏国警察は我国に似たること多き様」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 茂老兄。年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[121]</p> <p>仮番号 319</p>
286	〔堀切〕善次郎書簡	〔堀切〕善次郎	松井茂	大正4年12月4日	<p>数量 1通</p> <p>内容 大典に際して拙宅御滞留、御温情、有益なる御教訓を拝聞。「去る十一月廿七日聖上陛下御還幸御記念スタンプを頂戴仕り難有」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井茂殿閣下。大石は韓国警察囑託としてエジプト警察制度を調査し、報告書を作成。『韓国「併合」期警察資料 松井茂博士記念文庫旧蔵』第8巻参照。</p> <p>複製 冊子複製版 第5冊[125]</p> <p>仮番号 268</p>
287	牧朴真書簡	牧朴真	松井茂	明治31年5月1日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「過刻御相談仕■選挙法改正案に就ては」「又大臣よりも相談有之■現行法にては賄賂行使者及之を受けたる者を罰する法なりしに改正案にては行使者のみを罰するの利害又一人之犯罪の為に当選者投票全部之無効なる之事等に尤も利害御講究」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。牧は内務省警保局長。松井の解説（抜粋）「此書翰は牧氏か選挙法改正案に於ける賄賂行使者等の問題の研究を促し来るものなり又当時警察権限法警察監視法等も起案を了し又条約改正の準備書等も種々調査する所あり書中故に是に及ふ」</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[1]</p> <p>仮番号 80</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
288	牧朴真書簡	牧朴真	松井茂	明治31年6月8日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「議会は昨日停会相成り処議會等増税問題に付改心せさるときは■■解散之決心に」「小生の愚考には多分解散」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。松井の解説「余の林外科病院に入院中の見舞状なり当時帝國議會に於て増税問題等盛にして為に停会の事ある等世情紛々たり」</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[4]</p> <p>仮番号 81</p>
289	松尾清次郎書簡	松尾清次郎	松井茂	〔明治35年〕6月29日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「消防視察談御送与」「何卒我邦不完全之機關も近々改良被下度」「府会之議員達にも話し■■東京市部会も実行仕度」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井学兄。1903年か。差出人は鉛筆書き参照。松尾は東京府會議員。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[8]</p> <p>仮番号 296</p>
290	松岡均平書簡	松岡均平	松井茂	5月6日	<p>数量 1通</p> <p>内容 名古屋市勸業課長に就任した深野英二の紹介。「何卒将来の春觀を賜り度」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井博士殿。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[11]</p> <p>仮番号 169</p>
291	松平直亮書簡	松平直亮	松井茂	〔明治35年〕	<p>数量 1通</p> <p>内容 「公德と警察之冊子六部御投与被下難有」「別冊西村茂樹先生論説集先年小生纂輯仕候者に付一部呈上」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松平は出雲松江藩主松平定安の三男。弘道会理事、『西村会長公德養成意見』（1900）の編者。松井茂「公德と警察」『警察協會雜誌』第30号（1902年11月）。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[13]</p> <p>仮番号 305</p>
292	松波仁一郎書簡	松波仁一郎	松井茂	26日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「先日は久々に御目にかかり」「名古屋の風光」「別便にて御送り申すものは最近の拙著なるが」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[16]</p> <p>仮番号 163</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
293	松平本乗承書簡	松平乗承	松井茂	〔明治39年〕1月1日	数量 1通 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第6冊[18] 仮番号 138
294	丸山重俊書簡	丸山重俊	松井茂	〔明治38年〕8月24日	数量 1通 内容 「当国も不相変ゴタ々にて 著しき進歩を見るに不可候得共今や各地方警察の配置も一通相整候処京城に設ける帝国巡査は僅かに二名に過ぎず」「今回大臣には帝国巡査二十七名び派遣を要求したる次第なり」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井老台。丸山は1905年2月より韓国警務顧問。 複製 冊子複製版 第6冊[20] 仮番号 201
295	丸山名政書簡	丸山名政	松井茂	〔明治39年〕8月15日	数量 1通 内容 韓国理事官赴任への祝辞。昨年での勇退に同情。 記述法 墨書 備考 丸山は東京市助役。 複製 冊子複製版 第6冊[26] 仮番号 121
296	三上参次書簡	三上参次	松井茂	明治38年8月1日	数量 1通 内容 「過日は川上主事に御紹介下さってありがとうございました おかげで目的を達する事が出来ました」 記述法 墨書 備考 松井第一部長殿。 複製 冊子複製版 第6冊[29] 仮番号 200
297	三上参次書簡	三上参次	松井茂	明治39年8月16日	数量 1通 内容 韓国赴任につき奮励を願う。日韓関係資料の引継ぎ。 記述法 墨書 備考 松井老台。 複製 冊子複製版 第6冊[32] 仮番号 124
298	三上参次書簡	三上参次	松井茂	大正4年12月2日	数量 1通 内容 「斎田之米」御恵贈感謝。 記述法 墨書 備考 松井博士殿。 複製 冊子複製版 第6冊[37] 仮番号 334

資料 番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
299	三上参次書簡	三上参次	松井茂	大正5年3月3日	<p>数量 1通</p> <p>内容 史蹟保存協会の意見。「新愛知之論説に史蹟保存之陋■などか愚論を吐き居りたり」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井博士殿。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[39]</p> <p>仮番号 235</p>
300	三上参次書簡	三上参次	松井茂	大正5年5月23日	<p>数量 1通</p> <p>内容 史跡名勝保存事業に関係して挨拶状と七宝梨花瓶の御恵贈に感謝</p> <p>記述法 墨書</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[42]</p> <p>仮番号 39</p>
301	三上参次書簡	三上参次	松井茂	大正5年7月30日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「先般岡崎中学校長の候補として文学士吉川貞次郎氏を守屋視学官まで奨薦」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井博士殿。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[45]</p> <p>仮番号 289</p>
302	三崎亀之助書簡	三崎亀之助	松井茂	明治29年11月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「昨日は西澤香川県書記官は拙宅に來り」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。松井の解説(抜粋) 「水野内務大臣秘書官は余に警部長たるの意なきやを問ふ余熟考の後終に之に応ず此時に當りて三崎氏香川県人として警部長の適任者を求め之を水野氏に謀る是に於て余は香川県警部長石原健三君の跡を襲ふて其任に當る當時西澤正太郎君書記官たり三崎氏は為に余を西澤氏に紹介せるなり」</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[49]</p> <p>仮番号 86</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
303	三崎亀之助書簡	三崎亀之助	松井茂	明治31年1月19日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「内務省の事務官並に警察監獄学校の教授方」「此度の更迭に接し如何やと」「園田へも御一報」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は解説による。三崎は内務省県治局長。松井茂の解説「三崎氏は香川県人たるか為に県庁奉職官吏の評には頗る詳なり。余の県政に精励して県民の感情至極善き旨を毎々伝承すとて喜び呉れたるものなり。又余の身上に就ては内務省の事務官と警察監獄学校の教授を兼ねる事に内定し居れり云々」</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[52]</p> <p>仮番号 78</p>
304	水野錬太郎書簡	水野錬太郎	松井茂	明治31年1月8日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「却説内閣の交代と共に越警視總監の交代あるべき模様有之。勿論如何なる人か来任するやは未定には候へとも「警視庁へ帰来の希望を抱き居られる様」「警視庁は実に人材必要」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 解説「内務省に於て警察事務官を置くの議ありて其候補者に推挙し又警察監獄学校も新設の筈なりとて本省採用の内議あるを云ふ。当時省内には松岡氏次官たり三崎県治局長にして共に相知たり」。75加地書簡の解説と入れ違いか。1898年1月第三次伊藤内閣成立。1月12日園田安賢が新警視總監に就任。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[56]</p> <p>仮番号 76</p>
305	水野錬太郎書簡	水野錬太郎	松井茂	〔大正2年〕7月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「高塚法学士」「湯地内務部長上京之趣御通報により安達本人」「尚湯地君とも」「同人は文官試験通達後にても」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。水野は1913年2月～1914年3月内務次官。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[59]</p> <p>仮番号 56</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
306	水野錬太郎書簡	水野錬太郎	松井茂	〔大正3年〕8月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 松井の昇叙を祝す。「昭憲皇太后の」「地方官は不偏不党公平無私なることは实际需要に有之全然御同感」「海員拡備金之用務する為に出張の件は内田男爵よりの噂」「二荒伯爵も」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井明府。二荒芳徳は1914年2—12月愛知県属、1914年12月—1915年4月、愛知県内務部社寺兵事課。1915年5月、静岡県学務課長兼社寺兵事課長。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[62]</p> <p>仮番号 357</p>
307	水野錬太郎書簡	水野錬太郎	松井茂	〔大正3年〕9月10日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「今度御地に於も電車問題に関し焼打事件又生し紛擾を極める由」「近来」「何卒根本的取締之研究」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。1914年9月6日、名古屋市で電車賃値下げ騒動発生。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[65]</p> <p>仮番号 226</p>
308	水野錬太郎書簡	水野錬太郎	松井茂	〔大正4年〕11月14日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「悠紀齋田之御米御恵贈」礼状</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[67]</p> <p>仮番号 21</p>
309	水野錬太郎書簡	水野錬太郎	松井茂	21日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「過般博士会開会■■に付貴兄を推挙」「少し困難之話も有之今回は逆も六か敷」「小生も一度渡韓視察致度」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井学兄。1910年以前。松井は1911年</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[68]</p> <p>仮番号 370</p>
310	嶺八郎書簡	嶺八郎	松井茂	〔大正5年〕2月24日	<p>数量 1通</p> <p>内容 帝国保証株式会社 of 地方発起人の有力者選定について援助を求める</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井茂大兄。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[70]</p> <p>仮番号 239</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
311	嶺八郎書簡	嶺八郎	松井茂	10月23日	<p>数量 1通</p> <p>内容 湯地内務部長も</p> <p>記述法 墨書</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[73]</p> <p>仮番号 193</p>
312	宮崎道三郎書簡	宮崎道三郎	松井茂	〔明治34年〕5月3日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「今般欧米各国へ御出張之義御拜命成由」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井茂殿。年は推定。宮崎は東京帝大教授。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[76]</p> <p>仮番号 318</p>
313	村井二郎吉書簡	村井二郎吉	松井茂	6月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「小生去廿二日付を以て高等官三等に陞叙せられ一級俸（年俸参千円）下賜の恩命に接し申候。小生の今日あるは全く貴下御指導の御賜物と深く感</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井茂様。村井は名古屋鉄道管理局長。松井の母校、広島中学出身。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[77]</p> <p>仮番号 276</p>
314	村岡恒利書簡	村岡恒利	松井茂	〔大正5年2月〕16日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「貴地買取情況に関し芳翰を辱す御礼申上候多大の高配に依り着々相運ひ大部を了し居段深謝仕り候二三の六ヶ敷もの有之候貴旨は早速に小生より中央部の方に申遣置候十八日頃には当庁会計課長御地に立寄為筈に候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 村岡は陸軍軍人。1913年より大阪砲兵工廠提理。1915年陸軍中将。1917年、名古屋兵器製造所設置。「陸軍代日記 大日記 甲輯大正05年」所収「新設製造所名称の件」（防衛省防衛研究所所蔵）には、1916年2月17日付発信の村岡の電報（2月18日陸軍次官着信）として、「熱田土地買取二関シ今日迄ノ情報二依レハ地主中一一名ヲ除ク外八全部纏レリ」との記載。『松井茂自伝』371～372頁にも関連記述。ただし、松井は1914年頃、「熱田兵器工廠」と記述している。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[80]</p> <p>仮番号 353</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
315	目賀田種太郎書簡	目賀田種太郎	松井茂	11月16日	<p>数量 1通</p> <p>内容 安土摠見寺の修復につき援助依頼 「松岡師は島田知事の御世話に相成」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井明府閣下。島田剛太郎は1913年6月～1917年1月に岐阜県知事。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[82]</p> <p>仮番号 182</p>
316	茂木惣兵衛書簡	茂木惣兵衛	松井茂	3月16日	<p>数量 1通</p> <p>内容 昨日御高説を拝聴。「本日午前一時廿二分下阪仕り候に付」取り急ぎ手紙</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井知事殿。茂木は横浜の実業家。三代目か。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[84]</p> <p>仮番号 352</p>
317	森島権二書簡	森島権二	松井茂	〔大正4年〕12月7日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「二代幸長公御贈位之義に付■■之御配慮</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井茂様。浅野幸長は浅野長政の長男、紀州藩初代藩主（幸長の死後、安芸広島藩に転封）。1915年11月に贈従三位。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[86]</p> <p>仮番号 347</p>
318	森島権二書簡	森島権二	松井茂	〔大正6年〕4月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 碑文 侯爵様</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井茂殿。森島は浅野家扶持。1917年4月25日に愛知県の浅野家宅趾碑の除幕式（『松井茂自伝』342頁）。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[88]</p> <p>仮番号 149</p>
319	森島権二書簡	森島権二	松井茂	3月31日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「昨日神戸郡長当地御恩情直接に侯爵様に詳細希望」「土地買受」「土地購入」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井茂様。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[90]</p> <p>仮番号 373</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
320	森島権二書簡	森島権二	松井茂	5月4日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「明早朝出立帰京御委細之事情従一位様</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井茂様。浅野家が愛知県丹羽郡の浅野長政宅跡を買収した、1917年4月、浅野公園を開設（『松井茂自伝』342頁）。浅野家当主は浅野長勲侯爵。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[93]</p> <p>仮番号 375</p>
321	森島権二書簡	森島権二	松井茂	6月24日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[95]</p> <p>仮番号 261</p>
322	森島権二書簡	森島権二	松井茂	8月31日	<p>数量 1通</p> <p>内容 饒津神社「此度別格官幣社に御昇格之義」「内務省に於て神社局長にて意見を討論相成り委員会を通過加藤大臣又村上男尽力せられ」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井茂様。饒津神社は浅野長政はじめ浅野家君主6名を祭る神社。広島県。森島は浅野家扶持。加藤大臣は加藤友三郎海相（広島）と推定。1915年8月～1921年10年</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[98]</p> <p>仮番号 88</p>
323	森田小六郎書簡	森田小六郎	松井茂	〔大正3年〕6月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「硫安問題に付て重役一同に御高諭の程を」「彼等は事此に至れば略移転の外執るべき策なけれども市は会社に対して少しも同情無之特に市長は市会の形勢面白からず例の事大主義より努めて此問題に干与する事を避けんとするが如き有様にて」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井博士殿。森田は愛知県郡部の代議士。硫安は愛知硫安肥料株式会社。『松井茂自伝』372頁。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[102]</p> <p>仮番号 257</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
324	森田小六郎書簡	森田小六郎	松井茂	〔大正3年〕6月22日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「例の硫安問題に関し」「阪本市長は市会に対して甚だ面白からざる地位に在り市会議員亦甚だ頑迷に候へば到底市と会社との間に妥協点を発見する能はずと思ひ会社重役に其の旨を宣告すると同時に■■■に対しても全然無関係の地位に立つべき旨を」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。森田は愛知県郡部の代議士。硫安は愛知硫安肥料株式会社。『松井茂自伝』372頁。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[111]</p> <p>仮番号 258</p>
325	〔森田〕茂吉書簡	〔森田〕茂吉	松井茂	10月1日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「昨夜は久方振りに奥味深部懐旧談にて多少若還の気分に相成申候」「家族団居」昨夜の報によれば父は通風とのこと</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老台。差出人は「茂吉」。森田茂吉か。内務省参事官、農商務省商工局長、大日本セルロイド株式会社社長。</p> <p>複製 冊子複製版 第6冊[117]</p> <p>仮番号 343</p>
326	八代六郎書簡	八代六郎	松井茂	〔大正4年〕11月25日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「悠紀斎田案内一新並に献米を賜り」礼状</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。八代は当時、前海軍大臣（中将）。愛知県出身</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[1]</p> <p>仮番号 13</p>
327	八代六郎書簡	八代六郎	松井茂	〔大正5年〕4月12日	<p>数量 1通</p> <p>内容 書、並に小包送付に感謝</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。八代は前海軍大臣</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[2]</p> <p>仮番号 148</p>
328	矢部規矩治書簡	矢部規矩治	松井茂	〔明治39年〕4月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 松井の免官について。「右乃件は時勢上已むを得ざるより起りたること」「尚ほ引続き警察事務を研究せらるゝに就ては人の及さる所に有之必ずや将来大に発展する所可有之と」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。矢部は醸造学者。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[4]</p> <p>仮番号 217</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
329	山座円次郎書簡	山座円次郎	松井茂	〔明治39年〕9月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 岩村田中両名は小生十数年来の知友にて共に誠実なる仁に有之候処両名共に釜山鎮附近海面埋立之特許を得</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井理事官殿。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[7]</p> <p>仮番号 131</p>
330	山下信義書簡	山下信義	松井茂	〔大正4年〕9月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 過日の引見、貴著御恵与感謝。義兄死去。「選挙片つき、御大典近づく如何ばかりか御多忙の御事とお察し」「貴著を拝読して啓発する所頗る大」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。「選挙」「御大典」は、愛知県知事時代の第12回総選挙（1915年3月）と大正天皇即位式（同年11月）か。松井は大礼使事務官（悠紀地方長官）に任命される。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[11]</p> <p>仮番号 2</p>
331	山下信義書簡	山下信義	松井茂	5月5日	<p>数量 1通</p> <p>内容 過日貴県自治会第一総会の際には、とくに御呼出しにあつかり、素上、非才浅学御期待に背く、大なりしにもかかわらず、破格の御優待にあつかり、</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井茂殿閣下。山下は農村自治運動家。「一事貫行」を提唱。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[15]</p> <p>仮番号 339</p>
332	山田和美書簡	山田和美	松井茂	〔大正4年〕7月7日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「従一位様滞名中は」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>用紙 罫紙</p> <p>備考 年は推定。山田は陸軍軍人。松井茂の媒酌人。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[18]</p> <p>仮番号 55</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
333	山田三良書簡	山田三良	松井茂	〔大正3年〕7月9日	<p>数量 1通</p> <p>内容 本年法科大学政治科卒業生の藤岡長和は内務行政官のみを志望。同人を愛知県属に採用するよう配慮を願う</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 藤岡長和は1911年高等文官試験合格、1914年東京帝国大学法科大学卒業、同年愛知県属。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[19]</p> <p>仮番号 32</p>
334	山根正次書簡	山根正次	松井茂	〔大正4年〕11月21日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「御大典之 久振に御面会」 乃木大将 講演録二冊及悠紀斎田案内</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[23]</p> <p>仮番号 24</p>
335	山之内一次書簡	山之内一次	松井茂	明治34年12月10日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「東洋警察見聞録御送付に預り」「博覧会之方も万事好都合にて独国皇后陛下御」「独り老台の名誉のみならず我警察界の名誉と」「当県も■■県会を開き■■諸君と頻に議論を上下」「小濱も先般漸く警視に」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井学兄。山之内は1901年4月～1904年4月に青森県知事。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[25]</p> <p>仮番号 326</p>
336	湯河元臣書簡	湯河元臣	松井茂	10月8日	<p>数量 1通</p> <p>内容 貴地出張中の世話への礼状</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 湯河は1914年11月～1917年3月逓信次官</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[28]</p> <p>仮番号 66</p>
337	湯河元臣書簡	湯河元臣	松井茂	11月2日	<p>数量 1通</p> <p>内容 井沢真民（明治四十一年東大卒、明治四十二年愛知県属）とその妻の離婚について</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井貴兄</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[29]</p> <p>仮番号 186</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
338	湯地幸平書簡	湯地幸平	松井茂	〔大正5年〕5月1日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「当地共進会に対しては閣下特別之御配慮にして貴県よりは内務部長を始め多数有力なる人物御派遣被下民政長官始め一同御芳情感謝致し居り候」「過日は又祭田の慰労として沢山の金額御恵与被下」「先日一木内相、福岡県知事と来台せられ小生の執務振りも見て貰ふ事出来万事子都合に候間暮安神被下度候」「目下対岸の支那問題に付き種々画策■■中に候頗る興味ある問題も有之内地にては得られざる経験のことも有之候」</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 年は推定。松井明府閣下。差出人は「湯地生」。湯地は1915～1919年に台湾總督府警視総長。一木喜徳郎は1915年8月～1916年9月内務大臣。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[35]</p> <p>仮番号 345</p>
339	吉原三郎書簡	吉原三郎	松井茂	〔明治39年〕9月23日	<p>数量 1通</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[37]</p> <p>仮番号 132</p>
340	吉原三郎書簡	吉原三郎	松井茂	〔大正3年〕10月5日	<p>数量 1通</p> <p>内容 第一次大戦勃発による経済界の打撃。弊社の外資輸入、朝鮮全体の大打撃。会社の状況について。女婿の間宮修治が貴市税務監督局に在勤。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。吉原は内務官僚。東洋拓殖株式会社総裁。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[38]</p> <p>仮番号 244</p>
341	吉原三郎書簡	吉原三郎	松井茂	2月5日	<p>数量 1通</p> <p>内容 晚餐の案内「今夕五時半より松之江棲」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老台。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[41]</p> <p>仮番号 112</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
342	陸宗輿書簡	陸宗輿	松井茂	〔明治36年〕3月18日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「帰国之後警政漸次着手但国法之基礎未固」「肅親王殿下」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。宛先は「貴庁諸部長大人」。冒頭に「松井先生大人閣下」。北京巡警六局稽查。暦は清暦。1902年に肅親王ら来日、警視庁視察。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[42]</p> <p>仮番号 335</p>
343	李家隆介書簡	李家隆介	松井茂	〔大正2年〕7月31日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「貴書自治と警察と云ふ講演集之御惠贈に与り又静岡県に足を入れ老台施政に付」「回顧して小官静岡県在任四年有半の長さに対し実に慙愧に」「特に現時帝国に於ける民心の錯雑混乱遂に国体擁護会とか名称を附て人々の奮起を要する」「一県の愛知県にあらず日本国の愛知県なり」「熱田港（名古屋港）の如きは四日市港と共に国家眼を以て適当に有利に御経営せらるべきものにあらず</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井老台。松井茂著『自治と警察』は1913年7月刊行。李家は1905年12月～1910年6月静岡県知事。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[43]</p> <p>仮番号 354</p>
344	渡辺千秋書簡	渡辺千秋	松井茂	〔大正3年〕6月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「貴県下特別大演習御印刷に付態々落手」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井学兄。二荒は1914年3月から12月に愛知県属。松井明府閣下。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[50]</p> <p>仮番号 265</p>
345	渡辺千秋書簡	渡辺千秋	松井茂	〔大正3年〕8月5日	<p>数量 1通</p> <p>内容 松井の栄進祝い</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井明府閣下。松井は1914年7月16日高等官一等に叙せられる。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[51]</p> <p>仮番号 355</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
346	渡辺直達書簡	渡辺直達	松井茂	〔大正3年〕4月24日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「皇太后陛下崩御被遊候に付ては誠に恐懼之至に堪へず小生側近に奉仕せし者は如仰実に感慨無量に御座候」「貴府に於て御一同奉悼式御挙行相成赤十字社愛国婦人会は御歌御配布之御計画之趣」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井茂殿。1914年4月昭憲皇太后崩御。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[52]</p> <p>仮番号 249</p>
347	渡正元書簡	渡正元	松井茂	〔明治39年〕8月15日	<p>数量 1通</p> <p>内容 韓国釜山理事庁理事官赴任への祝辞</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井理事官殿。渡は貴族院議員。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[55]</p> <p>仮番号 119</p>
348	〔差出人不分明書簡〕	市太郎	松井茂	3月8日	<p>数量 1通</p> <p>内容 愛知県渥美郡福江長区長の岡本廣吉を紹介</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井知事閣下</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[56]</p> <p>仮番号 236</p>
349	〔差出人不分明書簡〕	一■	松井茂	〔大正3年〕10月20日	<p>数量 1通</p> <p>内容 本年は大分御面倒の事の貴地に発生」「議会は無予期の模様」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井賢兄。宇垣一成か。宇垣は1913年8月～1915年1月まで歩兵第六連隊長（名古屋の第三師団）。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[60]</p> <p>仮番号 237</p>
350	〔差出人不分明書簡〕	英	松井茂	〔明治35年〕4月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「欧洲御巡回先よりも書面御恵贈」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。一文字</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[63]</p> <p>仮番号 328</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
351	〔差出人不明書簡〕	貝三郎	松井茂	〔大正3年〕6月7日	<p>数量 1通</p> <p>内容 本日検事総長に面会 昨日貴兄より御申出之件に付司法次官へも協議 訴追 今回到底御面会の機会無之事と思考 今夜十一時帰任の事 二名に対して追訴 本日発行名古屋新聞に本件犯罪の顛末</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井知事殿。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[65]</p> <p>仮番号 255</p>
352	〔差出人不明書簡〕	広太	松井茂	5月11日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「其節御話申上之件に付貴電を辱ふし多謝早速熊谷校長へ出状乃処後任は既に東京大学へ交渉済にて東大より三名の候補者を推挙し来りたる故右の談判不調之節は」「以上の次第にて小生の候補者は■■採用に成らざるは勿論之儀にて是又致方無之ても愚考するに愛知病院■■■ては小生のより外により優りたる人物あるへしと考えられず」「第一東大の候補者三名共に恐らく学位のなきものならん」「小生より見れば愛知医専の人選を誤るは既往より繰返へさるる事実にて是を今後に再びする如事は遺憾に堪えず」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井老兄。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[69]</p> <p>仮番号 376</p>
353	〔差出人不明書簡〕	黄鉄	松井茂	20日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「漸く暑気相加候処」「先般地方官会議にて御出京」「早速紹介を得て赤星長野県知事に面語特に懇願仕」「来る廿二三日頃東京出発暫らく長野県下に満遊之事に取決」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 赤星典太は1915年8月12日～1921年5月27日まで長野県知事。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[74]</p> <p>仮番号 272</p>
354	〔差出人不明書簡〕	崎	松井茂	〔大正3年〕9月10日	<p>数量 1通</p> <p>内容 名古屋市電車賃値下げ騒動について。「所謂下層のなる尤も忌むへき欧米の病か動もすれはへのせる形を」。昨日川崎■■局長と警視庁に訪問し打合をなし、今夕森島氏と浅野忠純男爵を訪む</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は推定。松井博士殿</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[75]</p> <p>仮番号 227</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
355	〔差出人不明書簡〕	崎	松井茂	9月17日	数量 1通 内容 「東京大学医学専門部薬学科主任たりし佐野義蔵」錦地に医学学校教授として近日赴任。同君は予の親友。「過日石黒男爵に面会」 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第7冊[80] 仮番号 95
356	〔差出人不明書簡〕	四郎	松井茂	〔大正4年〕11月12日	数量 1通 内容 今回の大記念を期し 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第7冊[83] 仮番号 20
357	〔差出人不明書簡〕	修	徳望明府君閣下	7月24日	数量 1通 記述法 墨書 備考 「徳明府君閣下」松井茂宛。差出人は「修」。 複製 冊子複製版 第7冊[85] 仮番号 34
358	〔差出人不明書簡〕	秀助	松井茂	〔明治39年〕4月23日	数量 1通 内容 松井の桂冠を遺憾とする。 記述法 墨書 備考 年は推定。松井様貴下。 複製 冊子複製版 第7冊[86] 仮番号 213
359	〔差出人不明書簡〕	信一	松井茂	〔大正3年〕9月14日	数量 1通 内容 「貴市大騒動有之候新聞記事」「地方の大事件御迷惑之程誠に同情に不堪」「近時動もすれは衆を恃して焼打の壘行を演ずるものあるは帝国発展の深憂に有之候。現下の問題に対しては貴兄に依りて適当に巧妙に■■処理」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井学兄 複製 冊子複製版 第7冊[88] 仮番号 229
360	〔差出人不明書簡〕	西涯			数量 1通 記述法 墨書 用紙 賞状 複製 冊子複製版 第7冊[90] 仮番号 360

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
361	〔差出人不分明書簡〕	直吉	松井茂	8月11日	数量 1通 内容 「迫て薩藩の歴史に精通せる橋谷宗五郎なる人に出席を求め」 記述法 墨書 備考 松井閣下。 複製 冊子複製版 第7冊[91] 仮番号 103
362	〔差出人不分明書簡〕	仲	松井茂	〔大正4年〕12月24日	数量 1通 内容 「現時長野県郡長松浦君」「当人は多年小生存知の者にて」採用を依頼「当地は近々降雪之時機」 記述法 墨書 備考 年は推定。坂は1914年4月～1916年6月新潟県知事。「現時長野県郡長松浦君」は、下高井郡長松浦昌と思われる。松浦は1916年8月1日時点で郡長を辞職している。 複製 冊子複製版 第7冊[94] 仮番号 349
363	〔差出人不分明書簡〕	浜	松井茂	大正4年9月26日	数量 1通 内容 斎田 記述法 墨書 備考 松井学兄。 複製 冊子複製版 第7冊[97] 仮番号 1
364	〔差出人不分明書簡〕	雅■	松井茂	〔明治39年〕9月21日	数量 1通 内容 松井の勇退について。 記述法 墨書 複製 冊子複製版 第7冊[99] 仮番号 222
365	〔差出人不分明書簡〕	弥次郎	松井茂	〔大正4年〕7月22日	数量 1通 内容 「御即位大典に付定めし御繁忙御察し申上候」 記述法 墨書 備考 年は推定。松井様。 複製 冊子複製版 第7冊[102] 仮番号 61

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
366	〔差出人不分明書簡〕	幸長	松井茂	6月25日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「鈔之助市長」「土屋將軍御臨席之上軍人後援会之件に付御話」「先日同將軍に拝顔之節」「同將軍は先に三河郷友会之会長之職にあられ」「同將軍より同会之儀に付ても三河各郡市長殿に御話相願度主旨同將軍に申出た処快諾相成候」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井茂閣下。「土屋將軍」は土屋光春陸軍大将。土屋は愛知県岡崎町出身。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[106]</p> <p>仮番号 275</p>
367	〔差出人不分明書簡〕	■昭	松井茂	7月16日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「今回之講習会は格別之盛況」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井様。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[110]</p> <p>仮番号 282</p>
368	〔差出人不分明書簡〕	■■■	松井茂	2月11日	<p>数量 1通</p> <p>内容 犯人の監視についての学説を説明</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 松井兄</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[112]</p> <p>仮番号 333</p>
369	〔差出人不分明書簡〕	■■	松井茂	〔大正5年〕7月28日	<p>数量 1通</p> <p>内容 第二中学校長之件 茨木氏相談 候補者順位 杉本氏を第一に、其次野村、吉川、■■及阿部の順にて</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 年は書簡289から推定。松井知事閣下。差出人は高藤太郎（1919～1923年三重師範学校長。1924～第二東京私立中学校長）か。</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[119]</p> <p>仮番号 288</p>
370	〔差出人不分明書簡〕	■■	松井茂	8月23日	<p>数量 1通</p> <p>内容 「豊田」</p> <p>記述法 墨書</p> <p>複製 冊子複製版 第7冊[123]</p> <p>仮番号 364</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
371	〔差出人不明書簡〕	■	松井茂	〔明治35年5月〕3日	数量 1通 内容 「春喧」「過日は帰朝之赴」「此度は御著御贈与」「さすが御熱心之結果斯道近來之名著大に友人としても」「他年鞍を並へて斯道の為に■に当る様に際はは大に資料に致度」 記述法 墨書 備考 年月は推定。松井学兄。一文字。 複製 冊子複製版 第7冊[125] 仮番号 331
372	〔差出人不明書簡〕	■	松井茂	2月3日	数量 1通 内容 誠に不堪感謝 記述法 墨書 備考 松井明府。 複製 冊子複製版 第7冊[127] 仮番号 224
373	〔差出人不明書簡〕	■	松井茂	4月3日	数量 1通 内容 「教育会より記念品贈与」 記述法 墨書 備考 松井明府閣下。 複製 冊子複製版 第7冊[129] 仮番号 374
374	〔差出人不明書簡〕	■	松井茂	6月29日	数量 1通 内容 「小生去る廿一日無事帰京仕候」秋山君 松井警部 有明刑事 其他 記述法 墨書 備考 松井老兄。一文字。書簡283と同じ。大浦兼武か 複製 冊子複製版 第7冊[132] 仮番号 367
375	〔差出人不明書簡〕	■	松井茂	7月16日	数量 1通 内容 「御県第二中学校長欠員とかにて田村某より同人推挙仕候由之処」 記述法 墨書 備考 松井明府閣下。 複製 冊子複製版 第7冊[135] 仮番号 283
376	〔差出人不明書簡〕		松井茂	〔大正4年〕11月15日	数量 1通 内容 去十三十四日 同一系流之内に大嘗祭かかる光栄之宅家ある事 他人には口外不致唯親子の間にて栄誉の事と 記述法 墨書 備考 年は推定。須磨は茂の母。1919年死去。 複製 冊子複製版 第7冊[137] 仮番号 22

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
377	〔差出人不分明書簡〕		松井茂	〔大正4年〕11月18日	数量 1通 内容 「大饗宴の御料理御分配に預り」「家族一同大饗宴に参列」 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第7冊[139] 仮番号 23
378	〔差出人不分明書簡〕		松井茂	〔大正4年〕12月3日	数量 1通 内容 「去廿七日至廿八日も御大役無事御勤め被候難有」「河野通直公の墓前」松井家 記述法 墨書 備考 河野通直は伊予の河野氏。四郎通直は豊臣秀吉の四国平定の際に滅亡した。松井父の生家である津山氏は伊予の河野氏から出た。 複製 冊子複製版 第7冊[141] 仮番号 269
379	〔差出人不分明書簡〕			〔明治31年〕2月2日	数量 1通 内容 「警察権限法警察監視法等」「条約実施準備取調書蒞蒞摺之分一部」「御打合之上八此者に御貸譲られ度」 記述法 墨書 備考 年は推定。 複製 冊子複製版 第7冊[143] 仮番号 158
2022年追加分 (資料番号1001～1013)					
1001	松井茂書簡 大高庄右衛門・逸子宛	松井茂	大高庄右衛門・逸子	昭和11年8月31日	数量 1通 記述法 ペン 用紙 絵葉書(満鉄新京大ヤマトホテル)
1002	御大礼と京都消防界の革新	松井茂[著]		〔昭和3年〕	数量 同文2冊 記述法 印刷 備考 『大日本消防』2巻11号に同文有
1003	従一位侯爵 浅野長勲公の米寿を祝し奉りて	松井茂[述]、 亀岡豊二[発行]		昭和5年4月30日	数量 1冊 記述法 印刷
1004	警察と特別市制 (『警察協会雑誌』366号別刷)	松井茂[述]、 警察協会[発行]		昭和6年2月20日	数量 1冊 記述法 印刷
1005	震災と防空	松井茂[著]		〔昭和8年〕	数量 同文2冊 記述法 印刷 備考 『帝都消防』18巻12月号、19巻2月号に同文有

松井茂関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
1006	満洲警察機構問題に就て	松井茂[著]		〔昭和9年〕	数量 1冊 記述法 印刷 備考 貴族院速記録昭和9年12月2日より
1007	第六十九回帝国議会二於ケル松井茂博士ノ質問演説抜萃	警察講習所学友会[発行]		昭和11年7月15日	数量 1冊 記述法 印刷
1008	教化運動 故斎藤子爵追悼特集号 159号	中央教化団体連合会[発行]		昭和12年2月21日	数量 1冊 内容 松井茂「故斎藤子爵を憶ふ」収録 記述法 印刷
1009	北支皇軍を慰問して（『警察協会雑誌』450号別刷）	松井茂[著]		〔昭和12年〕	数量 同文2冊 記述法 印刷 備考 2冊とも修正の書き込み有
1010	余が消防奉仕五十年の回顧（『大日本警防』16巻12号別刷）	松井茂[著]		〔昭和17年〕	数量 同文2冊 記述法 印刷 備考 2冊とも修正の書き込み有
1011	日本消防新聞 27年634号	日本消防新聞社[発行]		昭和17年12月15日	数量 1冊 内容 第1面に松井茂の写真 記述法 印刷
1012	吉備之友 359号	東京芸備社[発行]		昭和18年1月1日	数量 1冊 内容 松井茂「余の今日あるは先輩及父母の賜なり」収録 記述法 印刷
1013	写真（松井茂）				数量 1枚 記述法 写真